

2. 悪質商法の被害等の経験について

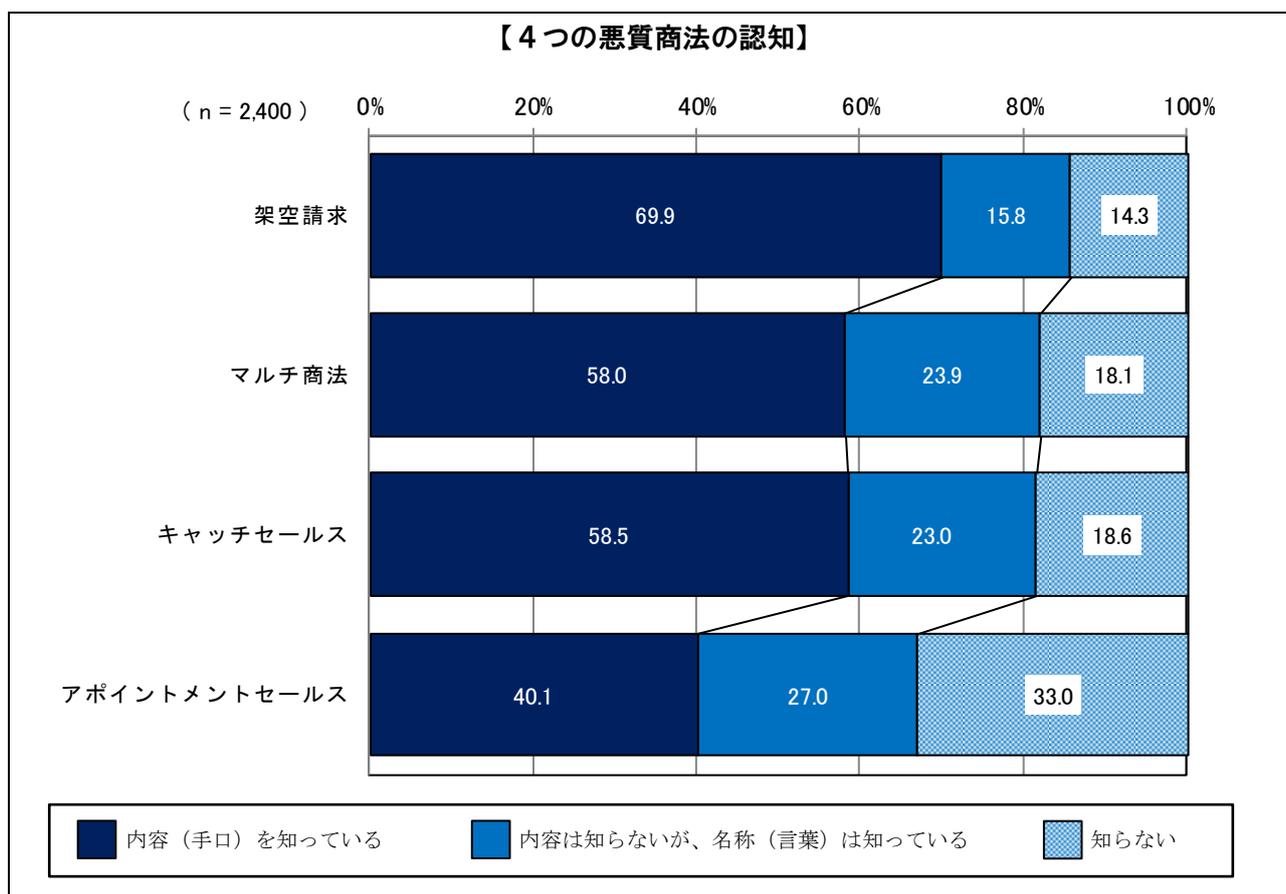
主な悪質商法のうち、特に若者が狙われやすいとされる4つの悪質商法（架空請求・マルチ商法・キャッチセールス・アポイントメントセールス）について、個別の経験等をたずねた。

(1) 悪質商法の被害等の経験（全体）

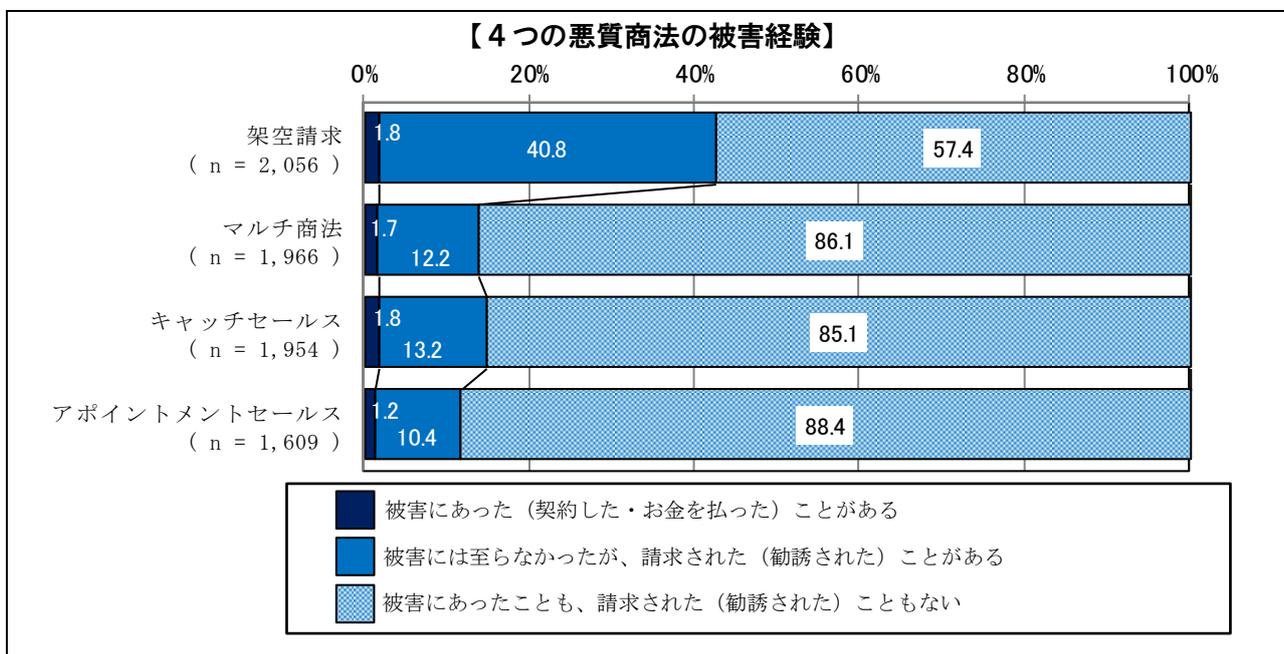
① 4つの悪質商法の認知及び被害経験

4つの悪質商法について、「内容（手口）を知っている」は、[架空請求]が69.9%で最も高く、次いで[キャッチセールス]が58.5%、[マルチ商法]が58.0%、[アポイントメントセールス]が40.1%となっている。

また、『認知度』（「内容（手口）を知っている」＋「内容は知らないが、名称（言葉）は知っている」）は、[架空請求]が85.7%で最も高く、次いで[マルチ商法]が81.9%、[キャッチセールス]が81.5%、[アポイントメントセールス]が67.1%となっており、他の商法と比較すると『認知度』が低くなっている。

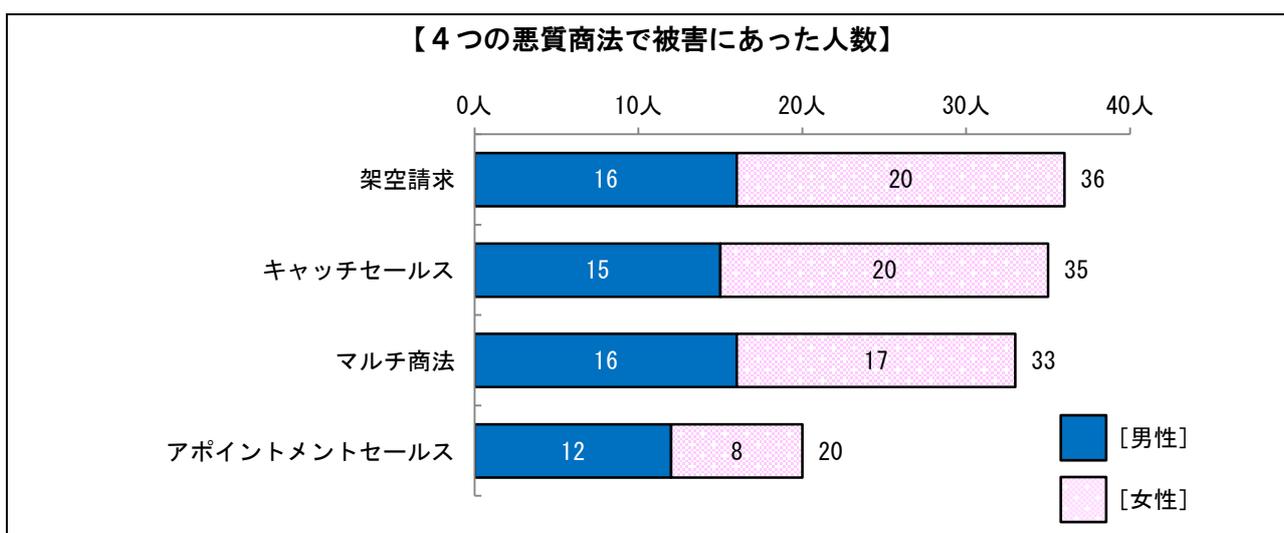


4つの悪質商法について、「内容（手口）を知っている」＋「内容は知らないが、名称（言葉）は知っている」と回答した人のうち、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」とする実被害の経験は、[架空請求] 及び [キャッチセールス] がともに 1.8%、[マルチ商法] が 1.7%、[アポイントメントセールス] が 1.2%となっている。



4つの悪質商法で被害にあった人数は、[架空請求] 36人（男性16人、女性20人）、[キャッチセールス] 35人（男性15人、女性20人）、[マルチ商法] 33人（男性16人、女性17人）、[アポイントメントセールス] 20人（男性12人、女性8人）となっている。

被害にあった人数は延べ124人となっている。



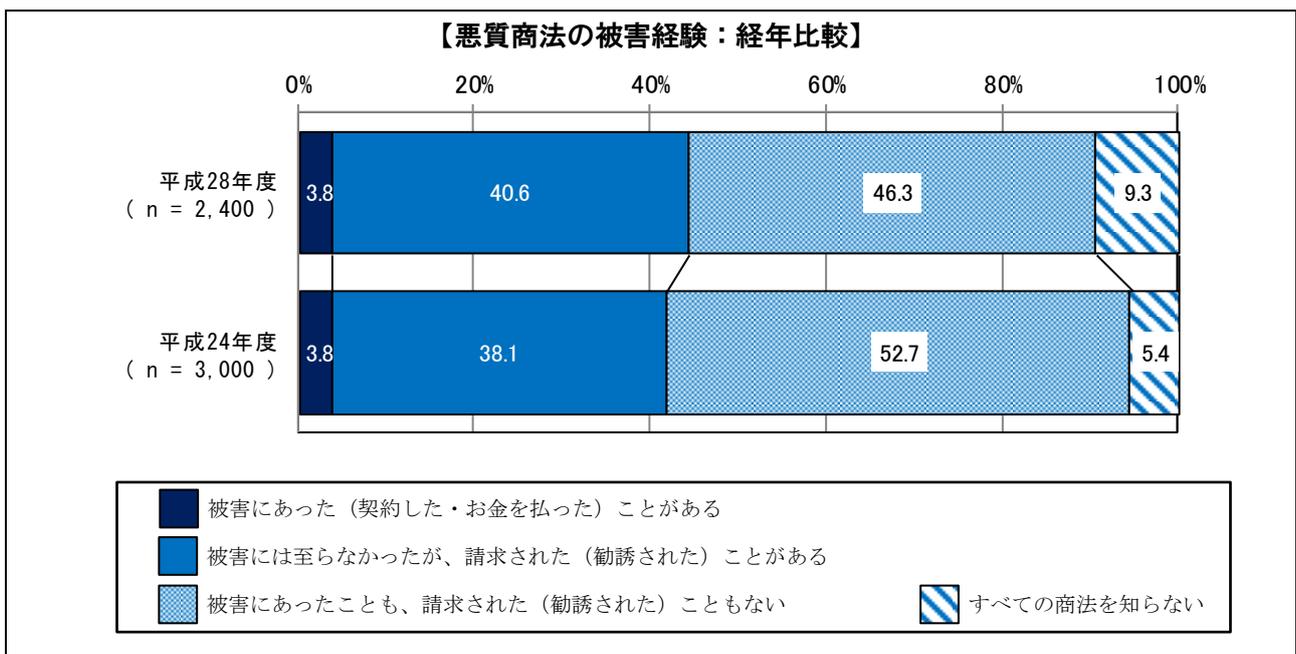
② 4つの悪質商法のいずれかの被害にあった経験

4つの悪質商法のいずれかの被害にあった経験についてみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は3.8%（90人）となっている。4つの悪質商法それぞれで被害にあった人数は延べ124人となっているが、そのうち20人が複数の悪質商法で被害にあっている（10、12ページ参照）。

「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は40.6%（975人）、「被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない」は46.3%（1,111人）、「すべての商法を知らない」は9.3%（224人）となっている。

実際の被害には至っていないものの約4割が悪質商法からのアプローチの経験があり、実被害の経験と合わせると4割強が何らかの被害の危険に遭遇している。

平成24年度と比較すると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は同数で横ばいとなっており、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、前回（38.1%）に比べ、2.5ポイント増加している。「被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない」は、前回（52.7%）に比べ、6.4ポイント減少している。また、「すべての商法を知らない」は、前回（5.4%）に比べ、3.9ポイント増加している。

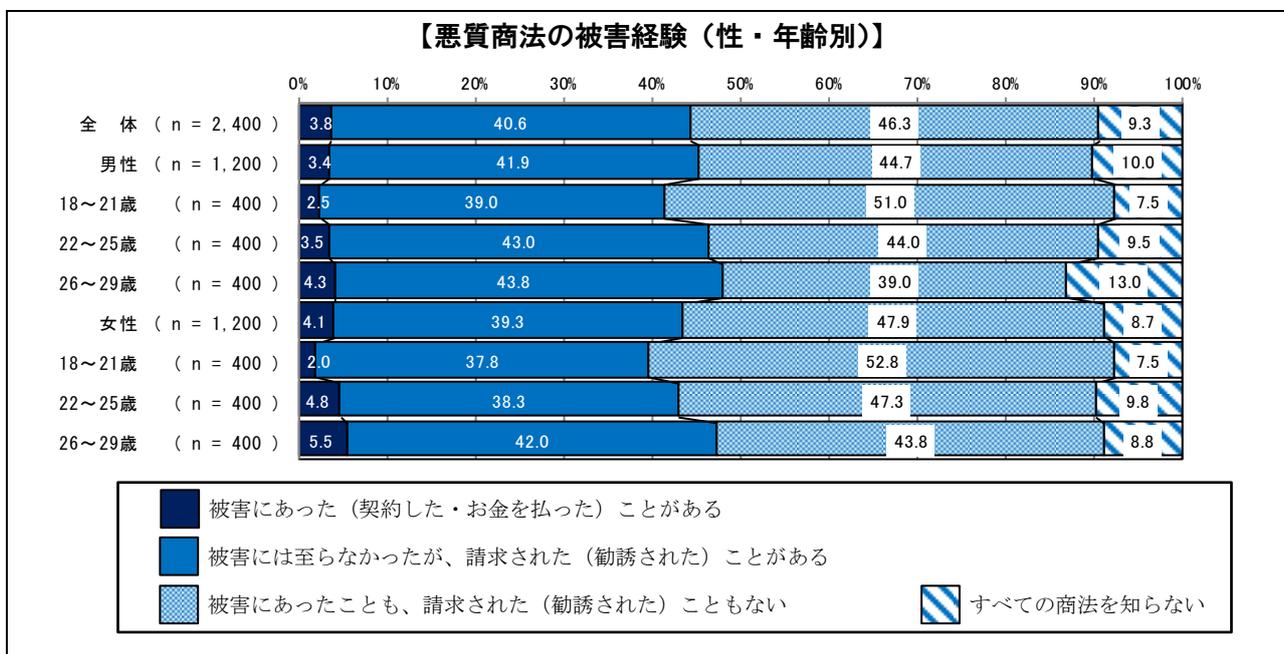


4つの悪質商法のいずれかで被害にあった人（90人）の状況を見ると、1つの商法での被害が77.8%となっている。また、複数の商法での被害経験がある人（20人）のうち、4種類全ての商法で被害にあった人が5人、3種類の商法で被害にあった人が4人となっており、11人が2種類の商法で被害にあっている。

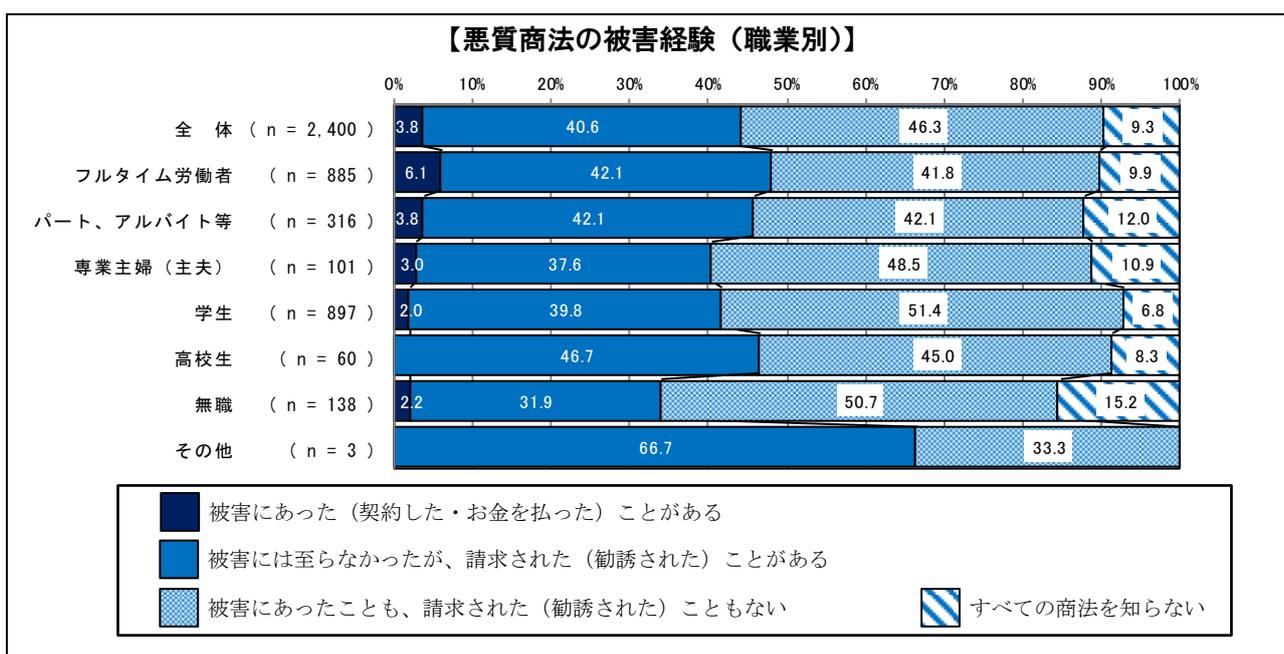
【悪質商法の被害の組合せ】

順位	件数	(%)	被害にあった悪質商法	被害の種類
1	25	27.8	架空請求	1
2	21	23.3	キャッチセールス	1
3	19	21.1	マルチ商法	1
4	5	5.6	アポイントメントセールス	1
5	5	5.6	架空請求+マルチ商法+キャッチセールス+アポイントメントセールス	4
6	3	3.3	マルチ商法+キャッチセールス	2
7	3	3.3	キャッチセールス+アポイントメントセールス	2
8	2	2.2	架空請求+アポイントメントセールス	2
9	2	2.2	マルチ商法+アポイントメントセールス	2
10	1	1.1	マルチ商法+キャッチセールス+アポイントメントセールス	3
11	1	1.1	架空請求+キャッチセールス+アポイントメントセールス	3
12	1	1.1	架空請求+マルチ商法	2
13	1	1.1	架空請求+マルチ商法+アポイントメントセールス	3
14	1	1.1	架空請求+マルチ商法+キャッチセールス	3
合計	90			

性・年齢別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、[女性・26～29歳]が5.5%で最も高く、次いで[女性・22～25歳]が4.8%、[男性・26～29歳]が4.3%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、[男性・26～29歳]が43.8%と最も高く、次いで[男性・22～25歳]が43.0%となっている。



職業別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、[フルタイム労働者]が6.1%で最も高く、次いで[パート、アルバイト等]が3.8%、[専業主婦（主夫）]が3.0%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、[高校生]が46.7%で最も高くなっている。

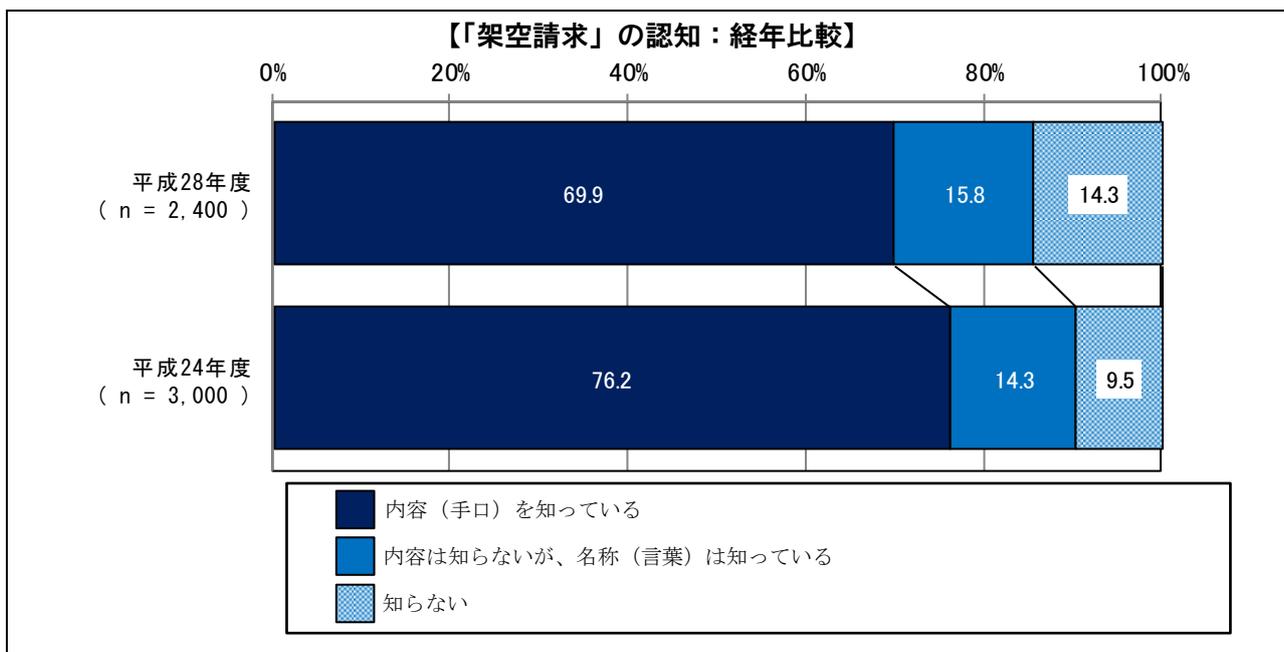


(2) 悪質商法の被害等の経験（架空請求）

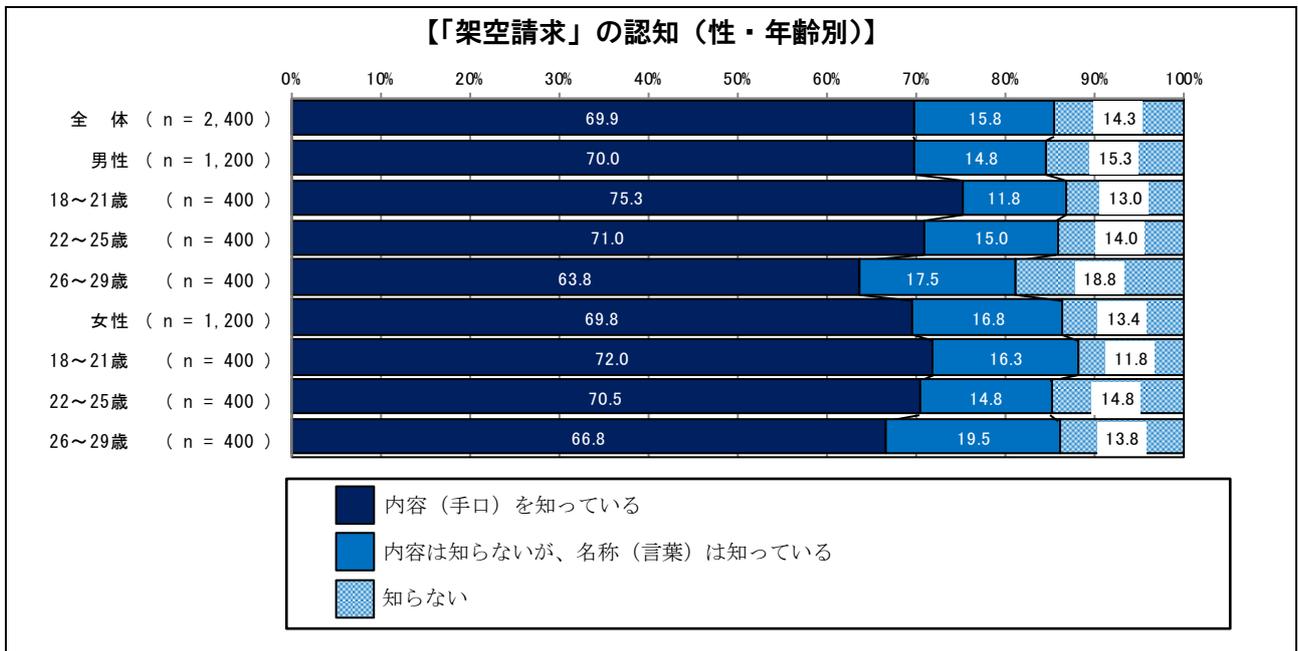
① 「架空請求」の認知

「架空請求」の認知は、「内容（手口）を知っている」が 69.9%、「内容は知らないが、名称（言葉）は知っている」が 15.8%、「知らない」が 14.3%となっている。

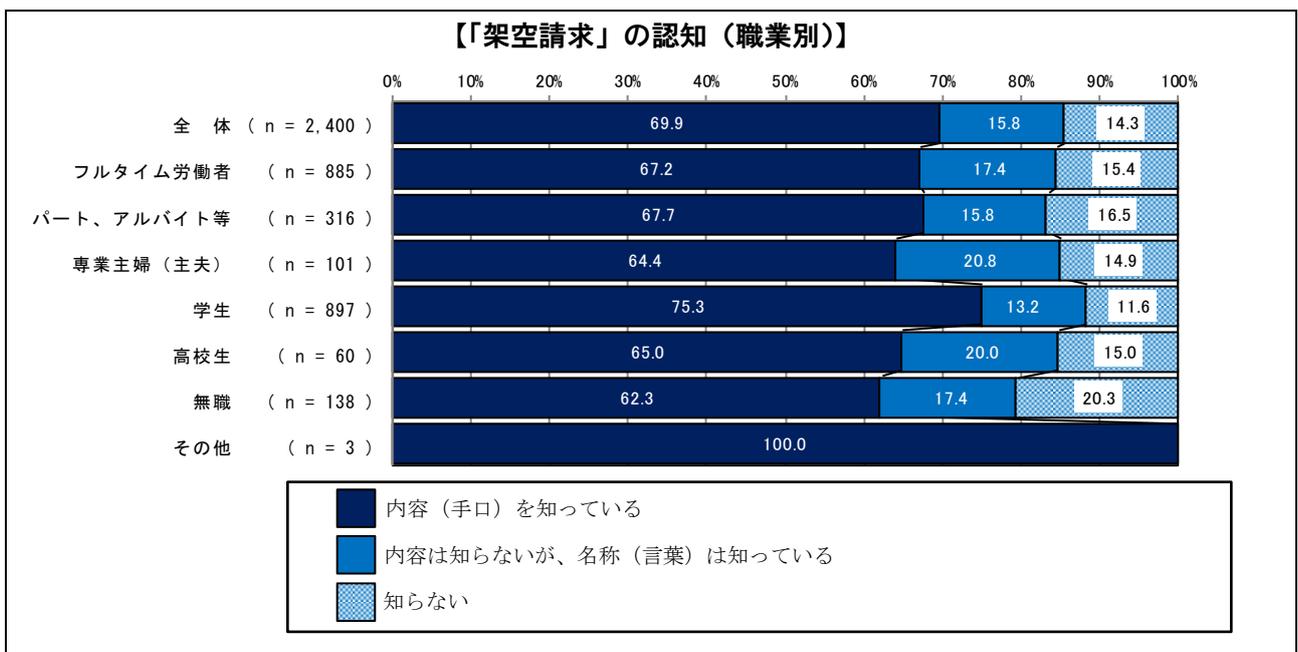
平成 24 年度と比較すると、「内容（手口）を知っている」は、前回（76.2%）に比べ、6.3 ポイント減少している。



性・年齢別にみると、「内容（手口）を知っている」は、[男性・18～21歳]が75.3%で最も高く、次いで[女性・18～21歳]が72.0%となっている。「知らない」は、[男性・26～29歳]が18.8%で最も高い。



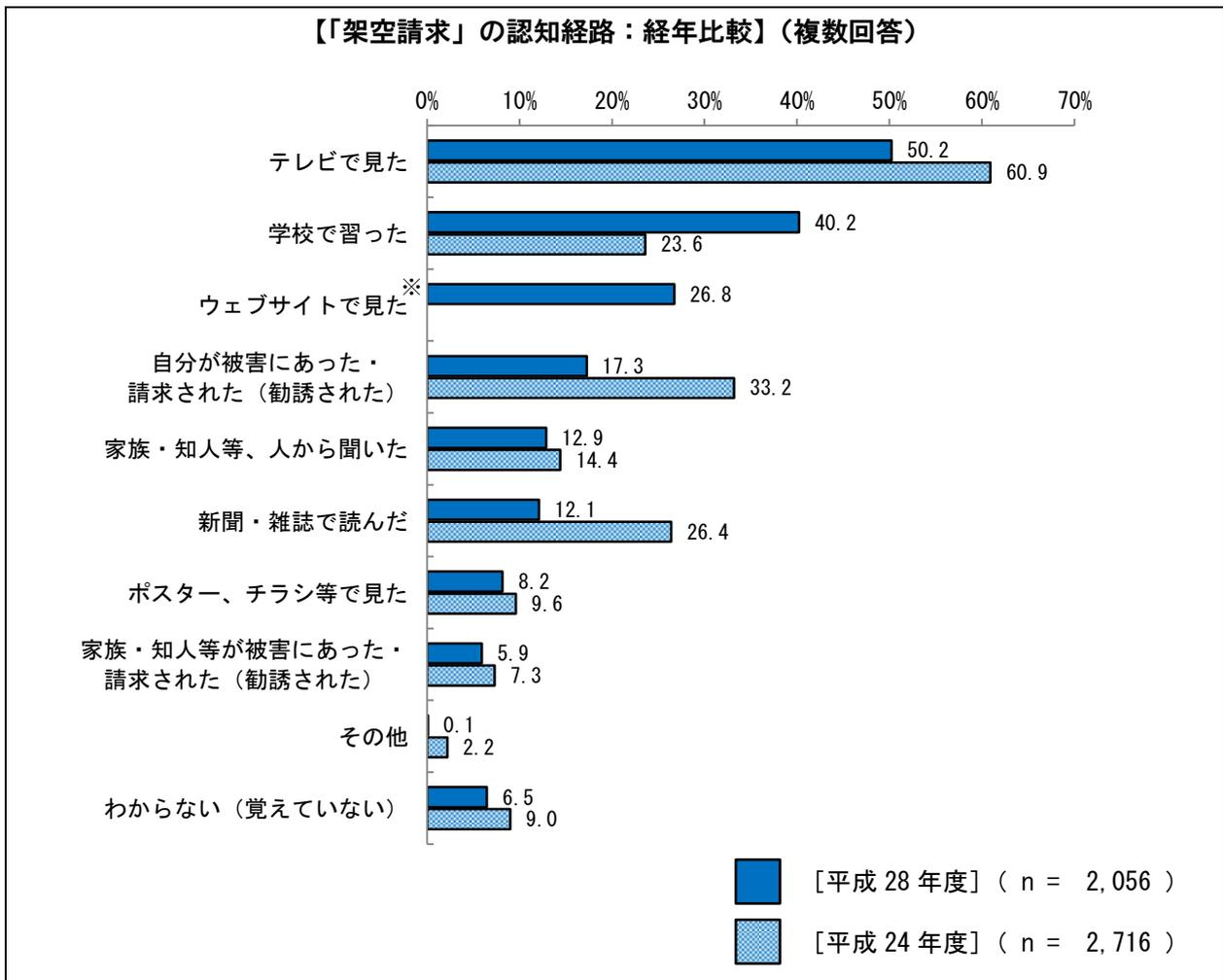
職業別にみると、「内容（手口）を知っている」は、[学生]が75.3%で最も高く、[パート、アルバイト等]が67.7%、[フルタイム労働者]が67.2%と続いている。「知らない」は、[無職]が20.3%で最も高くなっている。



②「架空請求」の認知経路

「架空請求」という悪質商法を認知している人（2,056人）の認知経路は、「テレビで見た」が50.2%で最も高く、次いで「学校で習った」が40.2%、「ウェブサイトで見た」が26.8%、「自分が被害にあった・請求された（勧誘された）」が17.3%となっている。

平成24年度と比較すると、「テレビで見た」は前回（60.9%）より10.7ポイント減少したが、「学校で習った」は、前回（23.6%）に比べ、16.6ポイント増加している。また、「自分が被害にあった・請求された（勧誘された）」は、前回（33.2%）に比べ、15.9ポイント減少している。



※ 選択肢「ウェブサイトで見た」を平成28年度調査において新規に追加した。

性・年齢別にみると、男女ともに〔22～25歳〕及び〔26～29歳〕で「テレビで見た」が1位となっており、〔18～21歳〕では「学校で習った」が1位となっている。

職業別にみると、〔学生〕及び〔高校生〕を除く区分で「テレビで見た」が1位となっており、〔学生〕（61.7%）及び〔高校生〕（76.5%）では「学校で習った」が1位となっている。「ウェブサイトで見つた」は〔フルタイム労働者〕が33.4%と他の区分より高くなっている。

【「架空請求」の認知経路（性・年齢別、職業別）】（複数回答）

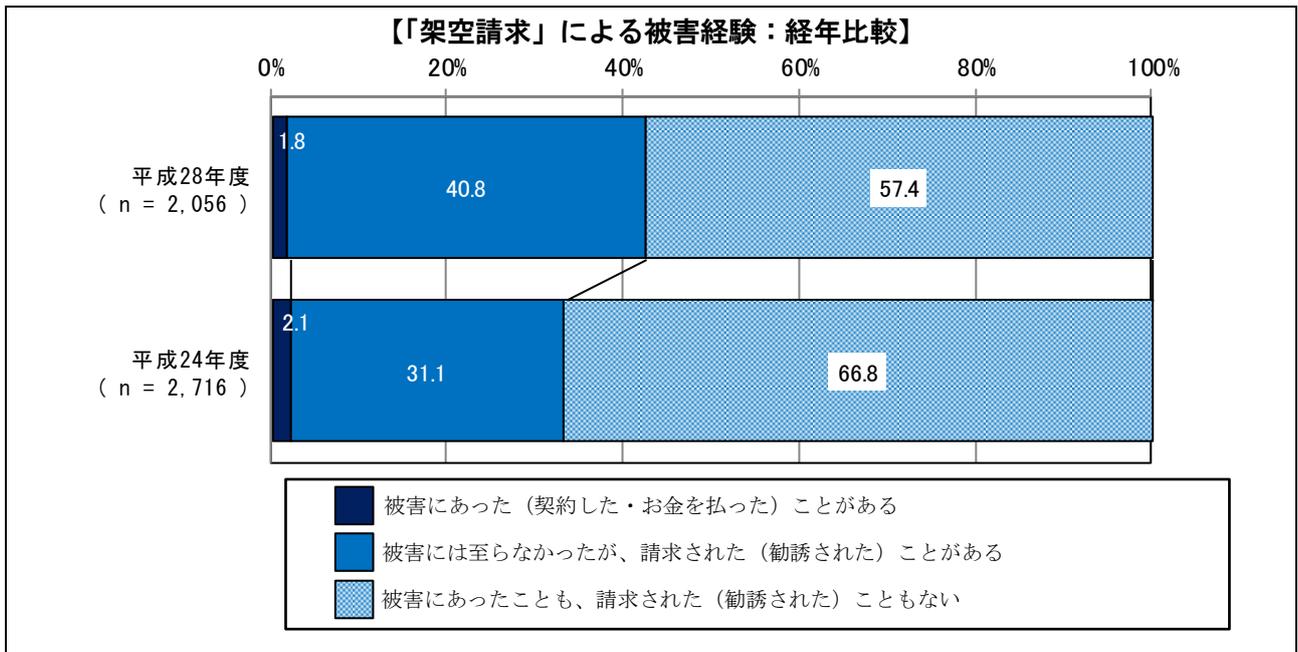
		(%)									
		テレビで見た	学校で習った	ウェブサイトで見つた	自分が被害にあった・請求された（勧誘された）	家族・知人等、人から聞いた	新聞・雑誌で読んだ	ポスター、チラシ等で見つた	家族・知人等が被害にあつた・請求された（勧誘された）	その他	わからない（覚えていない）
n											
全体	(2,056)	50.2	40.2	26.8	17.3	12.9	12.1	8.2	5.9	0.1	6.5
〔性・年齢別〕											
男性	(1,017)	49.5	37.8	30.5	15.8	13.1	14.8	9.6	4.9	0.1	8.6
18～21歳	(348)	44.5	60.9	25.6	11.8	11.8	12.6	10.1	2.6	0.3	6.3
22～25歳	(344)	47.4	34.9	30.5	17.7	15.4	14.8	7.8	5.8	-	7.3
26～29歳	(325)	56.9	16.0	35.7	18.2	12.0	17.2	11.1	6.5	-	12.3
女性	(1,039)	51.0	42.6	23.1	18.7	12.7	9.4	6.7	6.9	0.1	4.4
18～21歳	(353)	36.8	71.4	16.1	17.3	8.8	7.9	6.2	5.4	-	2.8
22～25歳	(341)	55.7	38.4	23.5	17.3	15.5	8.5	7.0	7.0	0.3	3.5
26～29歳	(345)	60.9	17.4	29.9	21.4	13.9	11.9	7.0	8.4	-	7.0
〔職業別〕											
フルタイム労働者	(749)	55.1	23.1	33.4	19.9	15.4	15.5	8.7	7.3	0.1	6.9
パート、アルバイト等	(264)	51.9	29.5	23.9	17.4	11.4	7.6	7.2	4.2	-	9.1
専業主婦（主夫）	(86)	66.3	19.8	18.6	16.3	7.0	4.7	2.3	7.0	-	3.5
学生	(793)	44.0	61.7	22.7	15.0	12.9	12.2	8.6	5.7	0.1	4.7
高校生	(51)	31.4	76.5	15.7	19.6	9.8	3.9	7.8	-	-	3.9
無職	(110)	53.6	27.3	30.0	14.5	6.4	9.1	9.1	4.5	-	13.6
その他	(3)	66.7	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-

：網掛けは各性・年齢、職業で第1位の項目

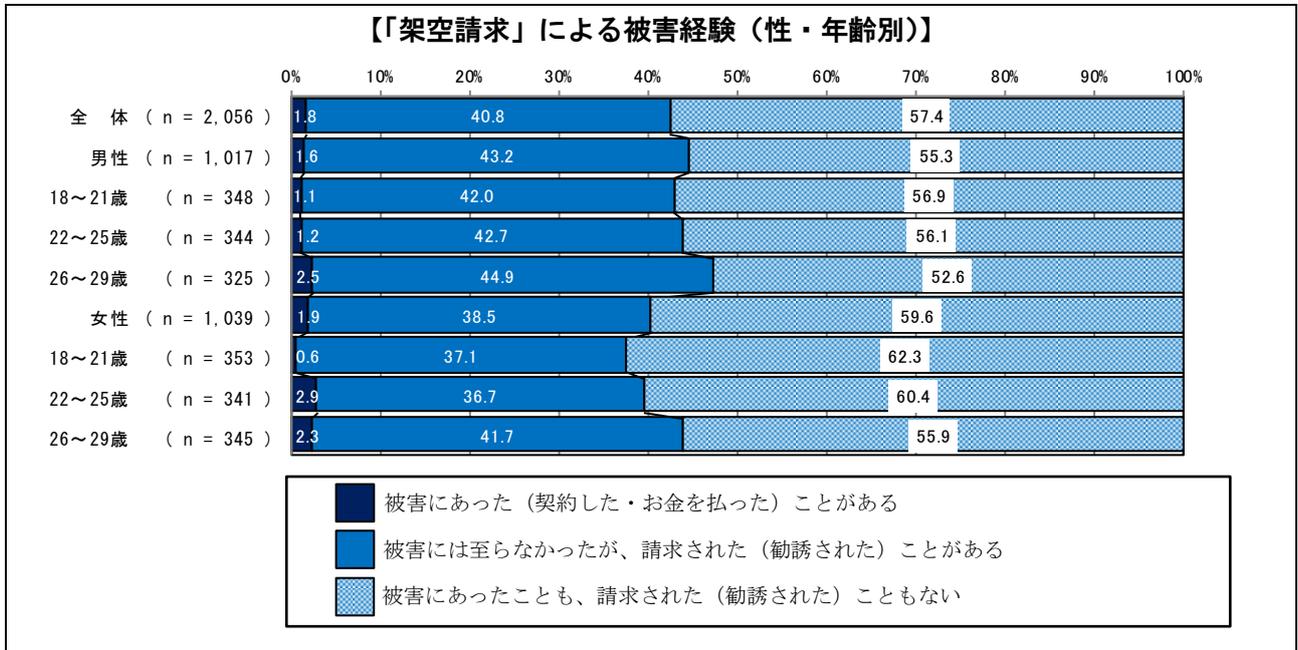
③ 「架空請求」による被害経験

「架空請求」による被害経験は、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」が1.8%、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」が40.8%、「被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない」が57.4%となっている。

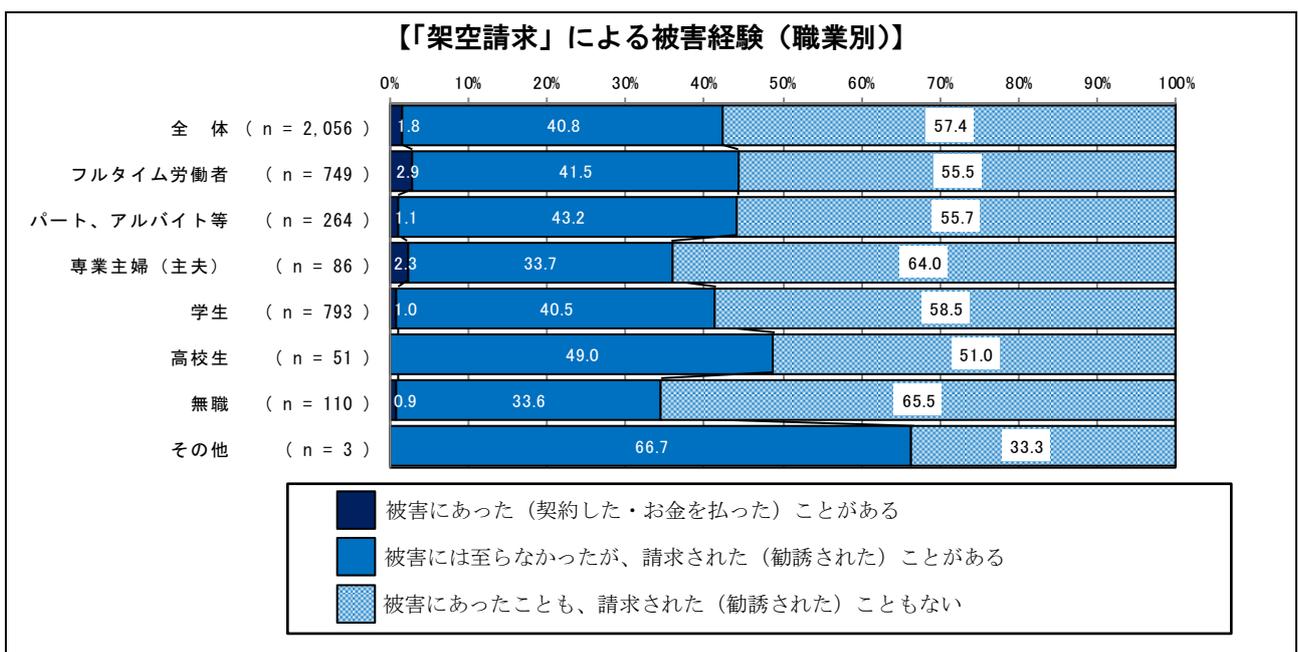
平成24年度と比較すると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は横ばいとなっており、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、前回（31.1%）に比べ、9.7ポイント増加している。



性別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、[男性]が 1.6%、[女性]が 1.9%と女性が上回る。中でも、[女性・22～25 歳] が 2.9%と最も高い。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、[男性] が 43.2%と、[女性]（38.5%）に比べ、4.7 ポイント上回っており、性・年齢別にみると、すべての年齢で [男性] が [女性] を上回っている。特に [男性・26～29 歳] が 44.9%で最も高くなっている。



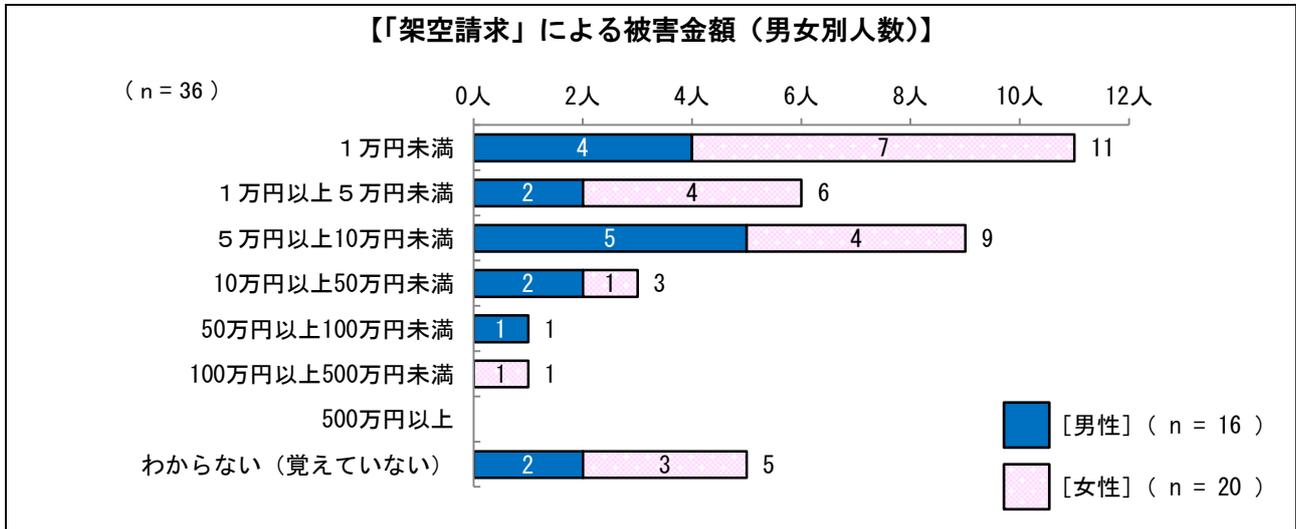
職業別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、[フルタイム労働者] が 2.9%で最も高くなっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、[高校生] が 49.0%で最も高い。



④ 「架空請求」による被害金額

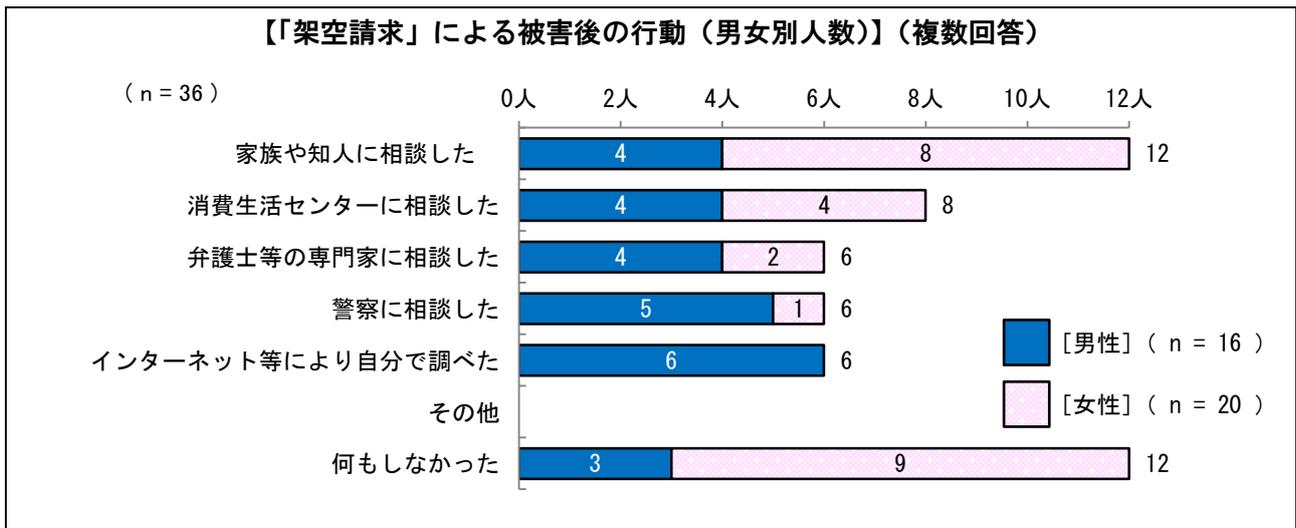
「架空請求」による被害経験者 36 人（男性 16 人、女性 20 人）の被害金額は、「1 万円未満」が 11 人（男性 4 人、女性 7 人）で最も多く、次いで「5 万円以上 10 万円未満」が 9 人（男性 5 人、女性 4 人）となっている。

また、『10 万円以上』の高額の被害が 5 人（男性 3 人、女性 2 人）となっている。



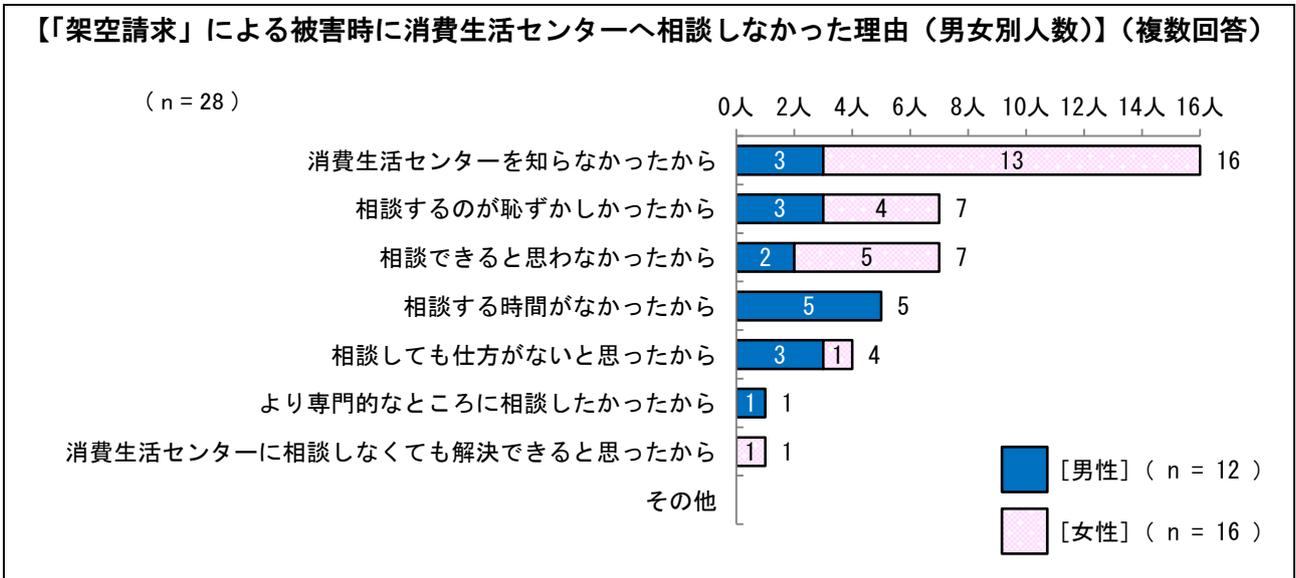
⑤ 「架空請求」による被害後の行動

「架空請求」による被害経験者 36 人（男性 16 人、女性 20 人）の被害後の行動は、「家族や知人に相談した」（男性 4 人、女性 8 人）及び「何もしなかった」（男性 3 人、女性 9 人）がともに 12 人と多くなっている。次いで「消費生活センターに相談した」が 8 人（男性 4 人、女性 4 人）となっている。



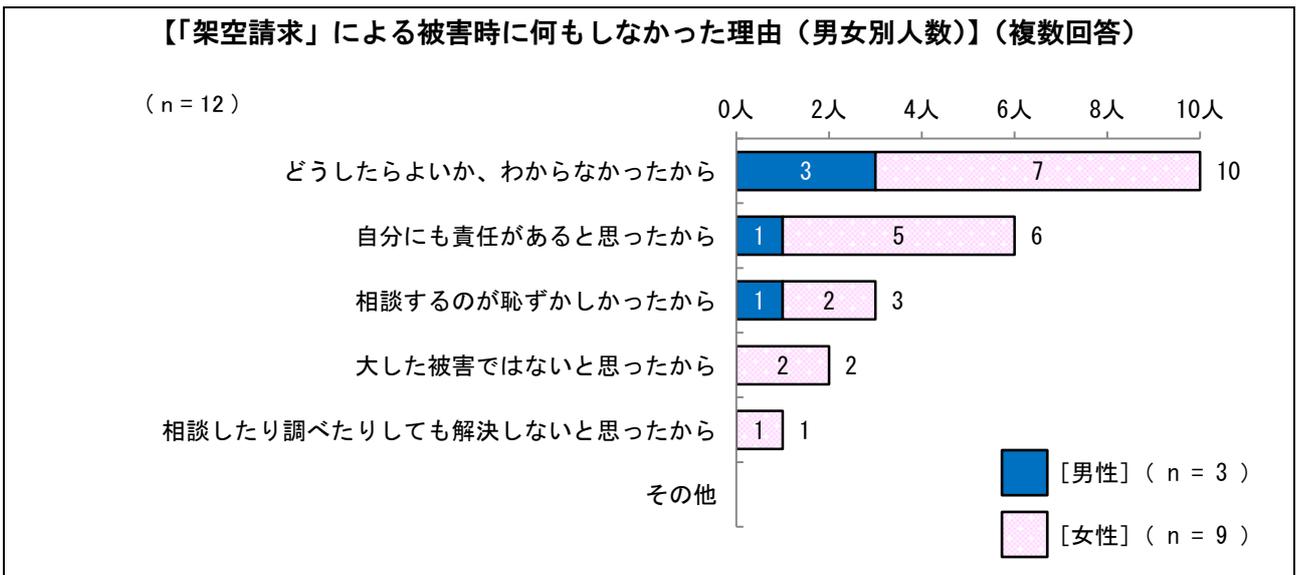
⑥ 「架空請求」による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由

「架空請求」による被害経験者のうち、被害時に消費生活センターへ相談しなかった28人（男性12人、女性16人）の理由は、「消費生活センターを知らなかったから」が16人（男性3人、女性13人）で最も多く、次いで「相談するのが恥ずかしかったから」（男性3人、女性4人）及び「相談できると思わなかったから」（男性2人、女性5人）がともに7人となっている。



⑦ 「架空請求」による被害時に何もしなかった理由

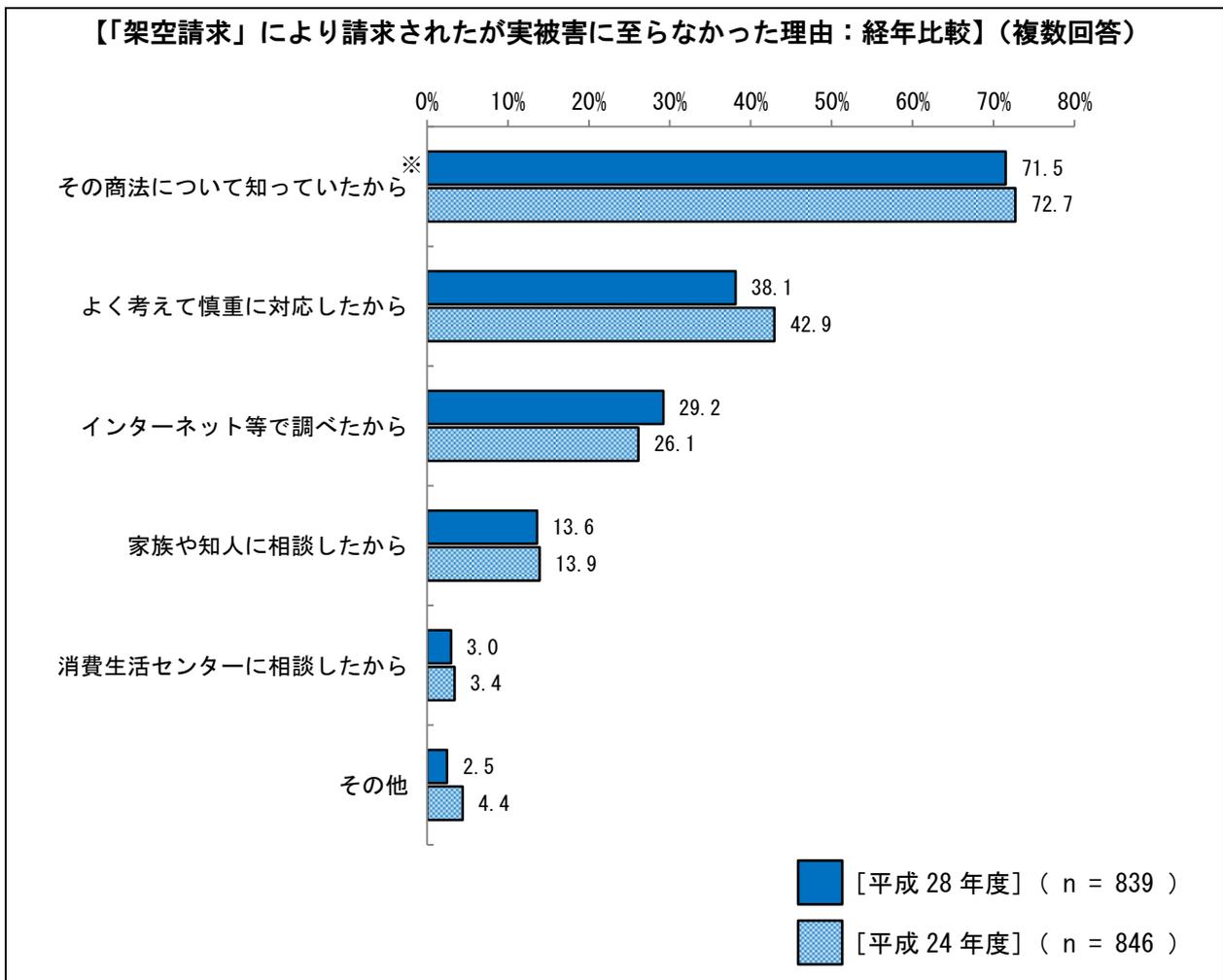
「架空請求」による被害経験者のうち、被害時に何もしなかった12人（男性3人、女性9人）の理由は、「どうしたらよいか、わからなかったから」が10人（男性3人、女性7人）で最も多く、次いで「自分にも責任があると思ったから」が6人（男性1人、女性5人）となっている。



⑧ 「架空請求」により請求されたが実被害に至らなかった理由

「架空請求」により請求されたが実被害に至らなかった人（839人）の理由は、「その商法について知っていたから」が71.5%で最も高くなっている。次いで「よく考えて慎重に対応したから」が38.1%、「インターネット等で調べたから」が29.2%、「家族や知人に相談したから」が13.6%となっている。「その他」の意見は21件あり、具体的な内容は「メールを無視したから（11件）」「警察に相談したから（2件）」「相手が引いたから（2件）」などが挙げられた。

平成24年度と比較すると、「よく考えて慎重に対応したから」は、前回（42.9%）に比べ、4.8ポイント減少している。一方、「インターネット等で調べたから」は、前回（26.1%）に比べ、3.1ポイント増加している。



※ 平成24年度調査「その商法の手口を知っていたから」を平成28年度調査において「その商法について知っていたから」に変更した。軽微な変更な為、経年比較を行った。

性・年齢別にみると、男女ともにすべての年齢で「その商法について知っていたから」が1位となっており、[女性・18～21歳]が77.1%で最も高くなっている。

職業別にみると、すべての区分で「その商法について知っていたから」が1位となっており、[専業主婦（主夫）]が79.3%で最も高くなっている。「よく考えて慎重に対応したから」は[高校生]が48.0%と他の区分より高くなっている。

【「架空請求」により請求されたが実被害に至らなかった理由（性・年齢別、職業別）】（複数回答）

		(%)						
		n	その商法について知っていたから	よく考えて慎重に対応したから	インターネット等で	家族や知人から相談したから	消費生活センターに相談したから	その他
全体		(839)	71.5	38.1	29.2	13.6	3.0	2.5
[性・年齢別]								
男性		(439)	72.7	40.8	30.5	10.5	4.1	1.8
18	～ 21 歳	(146)	73.3	39.0	26.0	6.8	3.4	2.7
22	～ 25 歳	(147)	76.9	38.1	31.3	8.8	2.7	1.4
26	～ 29 歳	(146)	67.8	45.2	34.2	15.8	6.2	1.4
女性		(400)	70.3	35.3	27.8	17.0	1.8	3.3
18	～ 21 歳	(131)	77.1	37.4	25.2	18.3	1.5	1.5
22	～ 25 歳	(125)	65.6	38.4	27.2	16.0	1.6	6.4
26	～ 29 歳	(144)	68.1	30.6	30.6	16.7	2.1	2.1
[職業別]								
フルタイム労働者		(311)	67.2	41.5	30.2	15.8	3.9	3.2
パート、アルバイト等		(114)	73.7	43.9	25.4	15.8	0.9	1.8
専業主婦（主夫）		(29)	79.3	13.8	31.0	6.9	3.4	-
学生		(321)	73.8	35.5	28.3	11.2	3.1	1.9
高校生		(25)	76.0	48.0	32.0	16.0	-	-
無職		(37)	73.0	27.0	35.1	13.5	2.7	8.1
その他		(2)	50.0	50.0	50.0	-	-	-

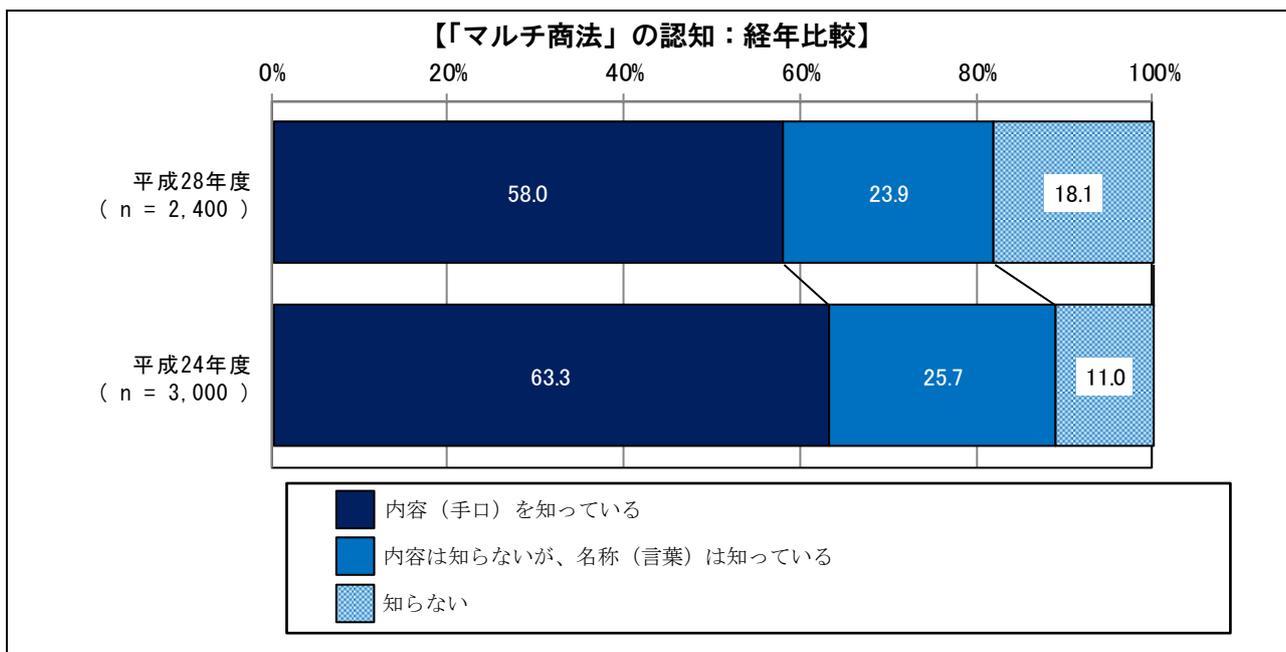
：網掛けは各性・年齢、職業で第1位の項目

(3) 悪質商法の被害等の経験（マルチ商法）

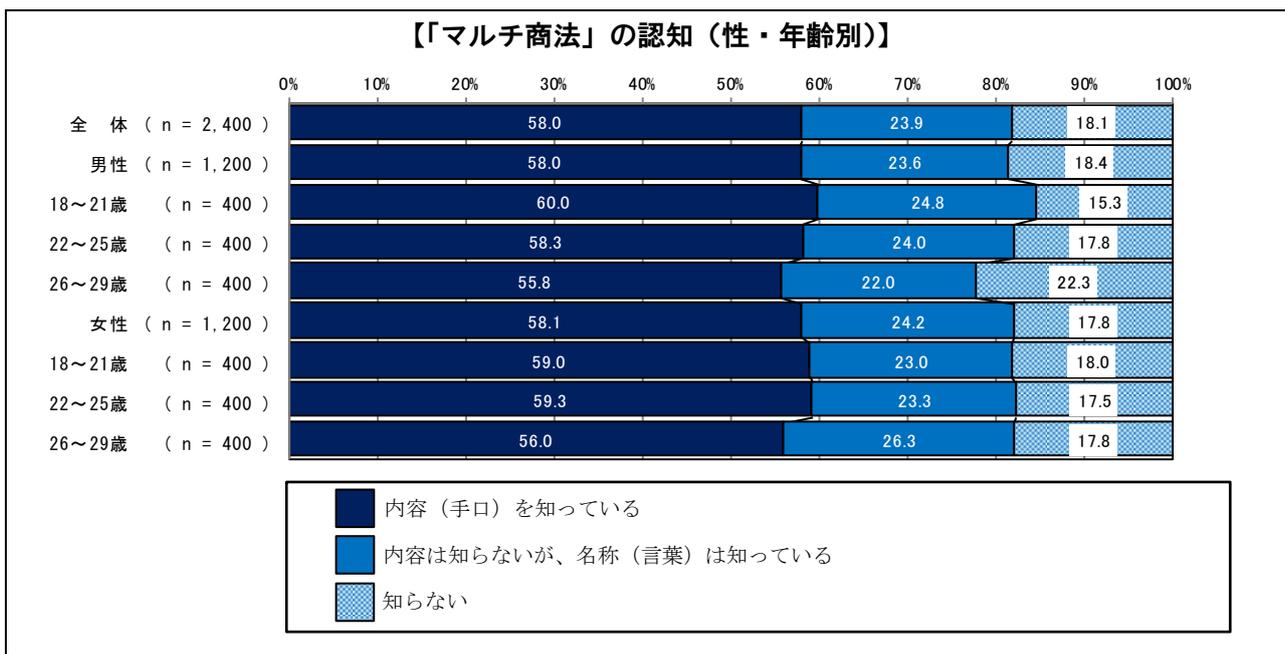
① 「マルチ商法」の認知

「マルチ商法」の認知は、「内容（手口）を知っている」が 58.0%、「内容は知らないが、名称（言葉）は知っている」が 23.9%、「知らない」が 18.1%となっている。

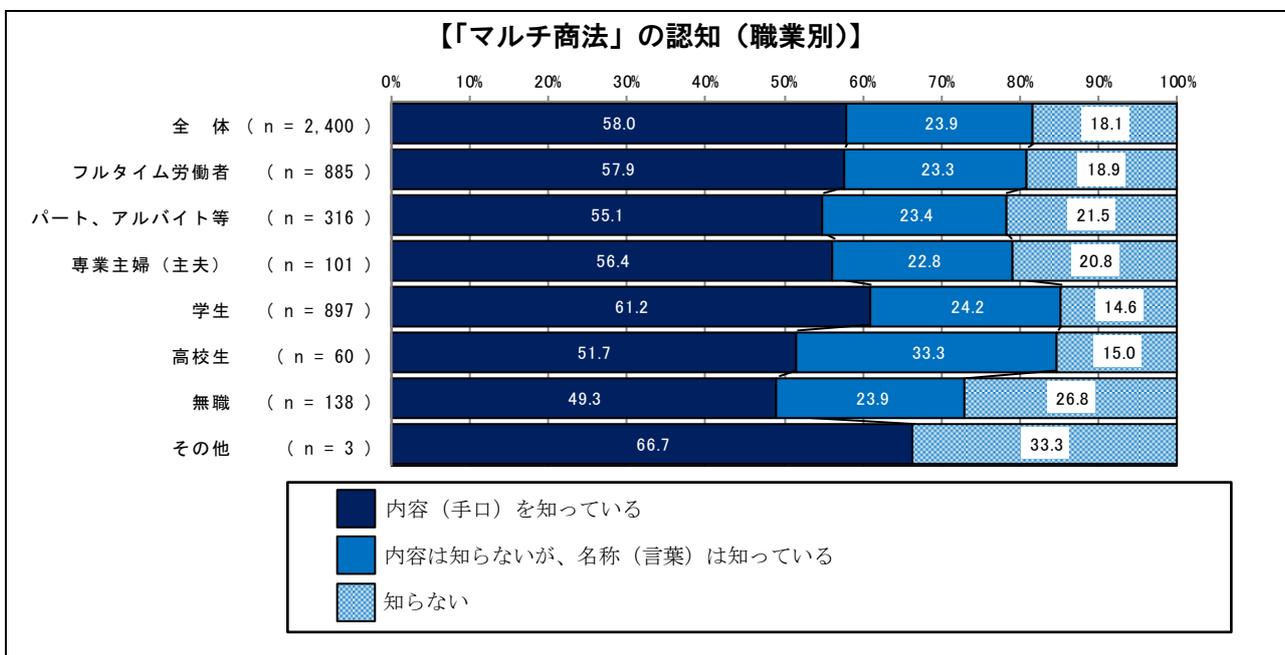
平成 24 年度と比較すると、「内容（手口）を知っている」は、前回（63.3%）に比べ、5.3 ポイント減少している。



性・年齢別にみると、性・年齢による大きな差はみられない。



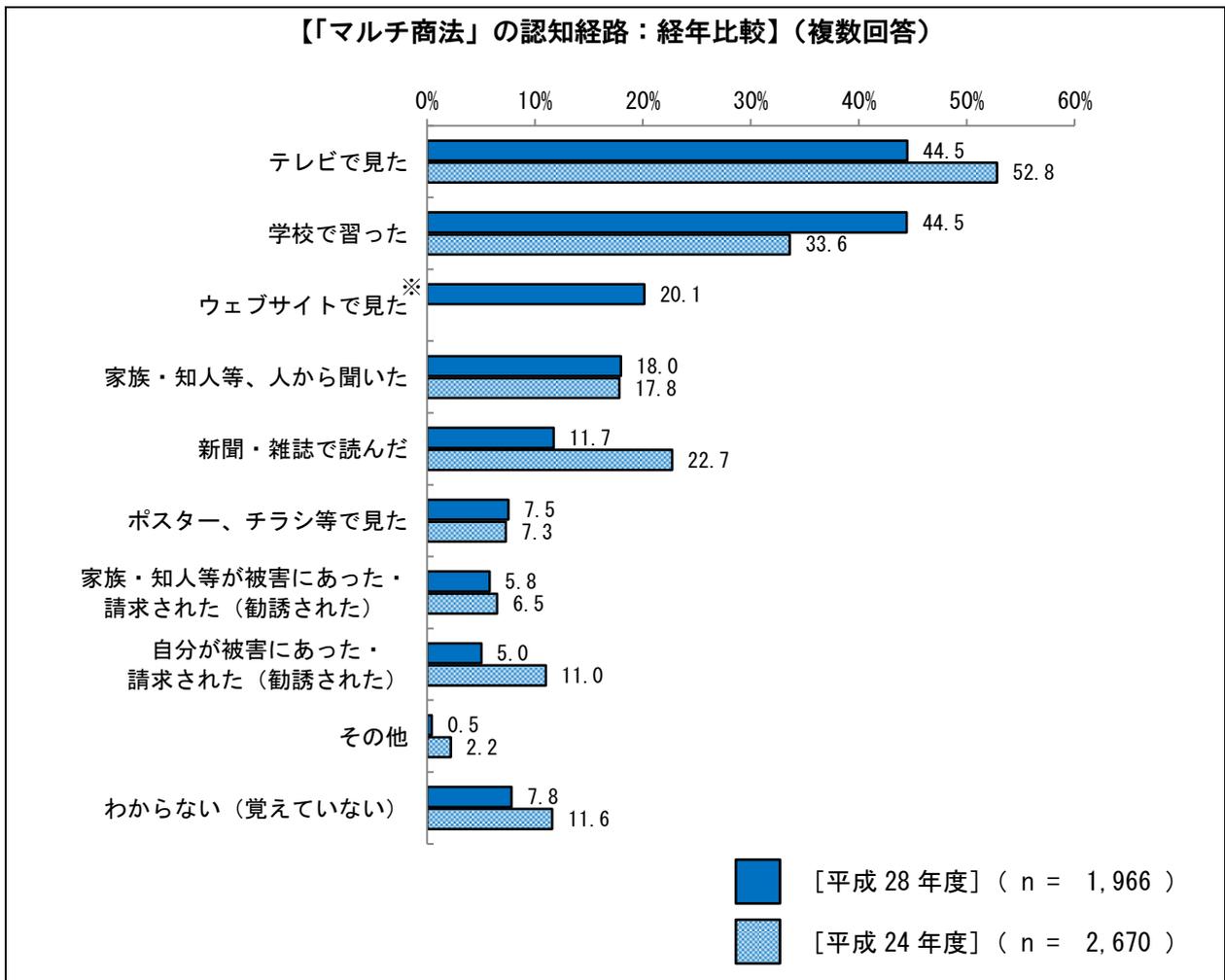
職業別にみると、「内容（手口）を知っている」は、[学生]が61.2%と最も高く、「内容は知らないが、名称（言葉）は知っている」は、[高校生]が33.3%と最も高い。



②「マルチ商法」の認知経路

「マルチ商法」という悪質商法を認知している人（1,966人）の認知経路は、「テレビで見た」及び「学校で習った」がともに44.5%で最も高くなっている。以下、「ウェブサイトで見た」が20.1%、「家族・知人等、人から聞いた」が18.0%、「新聞・雑誌で読んだ」が11.7%となっている。

平成24年度と比較すると、「学校で習った」は、前回（33.6%）に比べ、10.9ポイント増加している。一方、「新聞・雑誌で読んだ」は、前回（22.7%）に比べ、11.0ポイント減少している。



※ 選択肢「ウェブサイトで見た」を平成28年度調査において新規に追加した。

性・年齢別にみると、男女ともに [22～25 歳] 及び [26～29 歳] で「テレビで見た」が1位となっており、[18～21 歳] では「学校で習った」が1位となっている。「ウェブサイトで見つた」は [男性・26～29 歳] が 31.8%、「家族・知人等、人から聞いた」は [女性・26～29 歳] が 29.2% と他の区分より高くなっている。

職業別にみると、[学生] 及び [高校生] を除く区分で「テレビで見た」が1位となっており、[学生] (65.7%) 及び [高校生] (76.5%) では「学校で習った」が1位となっている。「ウェブサイトで見つた」は [フルタイム労働者] が 26.0% と他の区分より高くなっている。

【「マルチ商法」の認知経路（性・年齢別、職業別）】（複数回答）

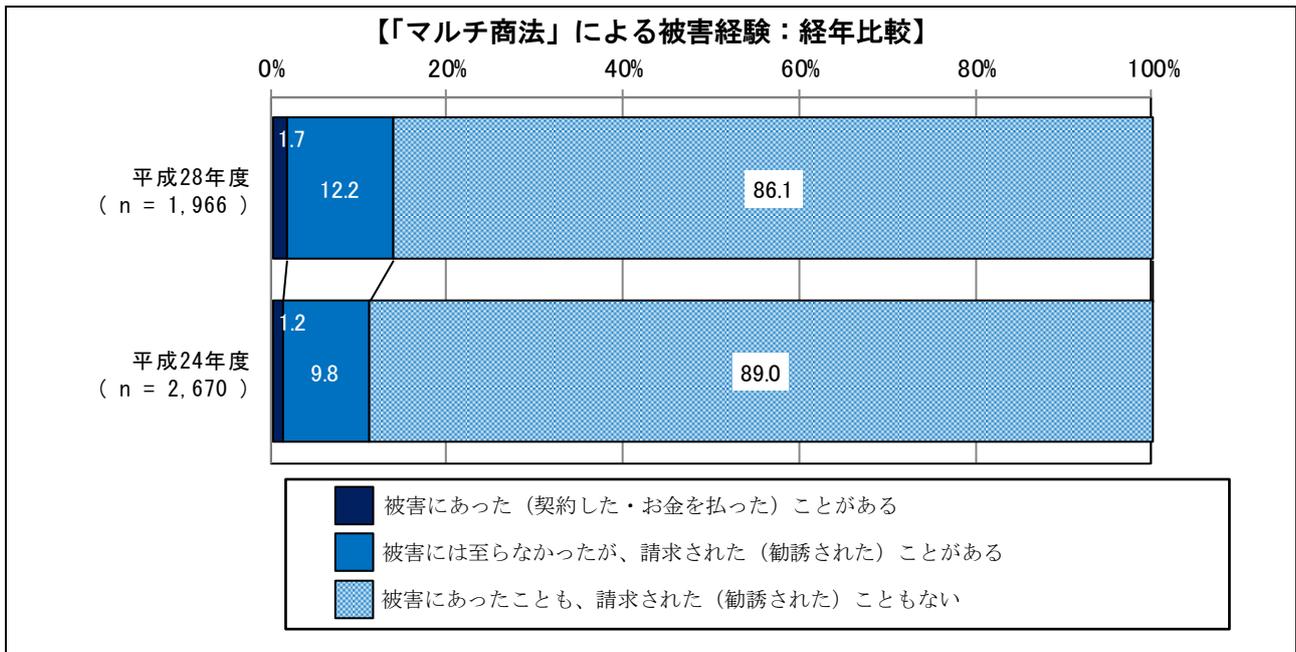
		(%)									
n		テレビで見た	学校で習った	ウェブサイトで見つた	家族・知人等、人から聞いた	新聞・雑誌で読んだ	ポスター、チラシ等で見つた	家族・知人等が被害にあつた・請求された（勧誘された）	自分が被害にあつた・請求された（勧誘された）	その他	わからない（覚えていない）
全 体	(1,966)	44.5	44.5	20.1	18.0	11.7	7.5	5.8	5.0	0.5	7.8
[性・年齢別]											
男 性	(979)	44.7	42.0	24.1	16.2	14.9	8.9	4.5	4.2	0.2	10.1
18 ～ 21 歳	(339)	36.0	64.6	19.2	10.9	12.4	9.7	1.8	1.8	0.3	7.1
22 ～ 25 歳	(329)	46.2	38.9	21.9	20.4	11.9	7.6	5.2	5.5	-	9.1
26 ～ 29 歳	(311)	52.7	20.6	31.8	17.7	20.9	9.3	6.8	5.5	0.3	14.5
女 性	(987)	44.3	46.9	16.2	19.7	8.6	6.2	7.1	5.9	0.7	5.6
18 ～ 21 歳	(328)	29.9	73.2	10.7	8.5	6.7	4.6	3.7	0.9	0.9	4.9
22 ～ 25 歳	(330)	47.9	43.3	16.7	21.2	10.0	5.8	8.2	6.1	0.9	5.2
26 ～ 29 歳	(329)	55.0	24.3	21.3	29.2	9.1	8.2	9.4	10.6	0.3	6.7
[職 業 別]											
フルタイム労働者	(718)	50.7	27.4	26.0	24.2	15.5	9.3	7.5	7.8	0.7	7.2
パート、アルバイト等	(248)	44.8	35.5	19.8	20.2	8.5	4.8	8.5	8.1	0.4	10.5
専業主婦（主夫）	(80)	62.5	22.5	15.0	23.8	3.8	2.5	12.5	11.3	-	1.3
学 生	(766)	36.9	65.7	15.8	12.7	11.7	7.7	3.0	1.3	0.4	6.1
高 校 生	(51)	27.5	76.5	13.7	3.9	3.9	3.9	3.9	-	-	5.9
無 職	(101)	50.5	27.7	19.8	10.9	4.0	5.9	3.0	4.0	-	24.8
そ の 他	(2)	100.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-

：網掛けは各性・年齢、職業で第1位の項目

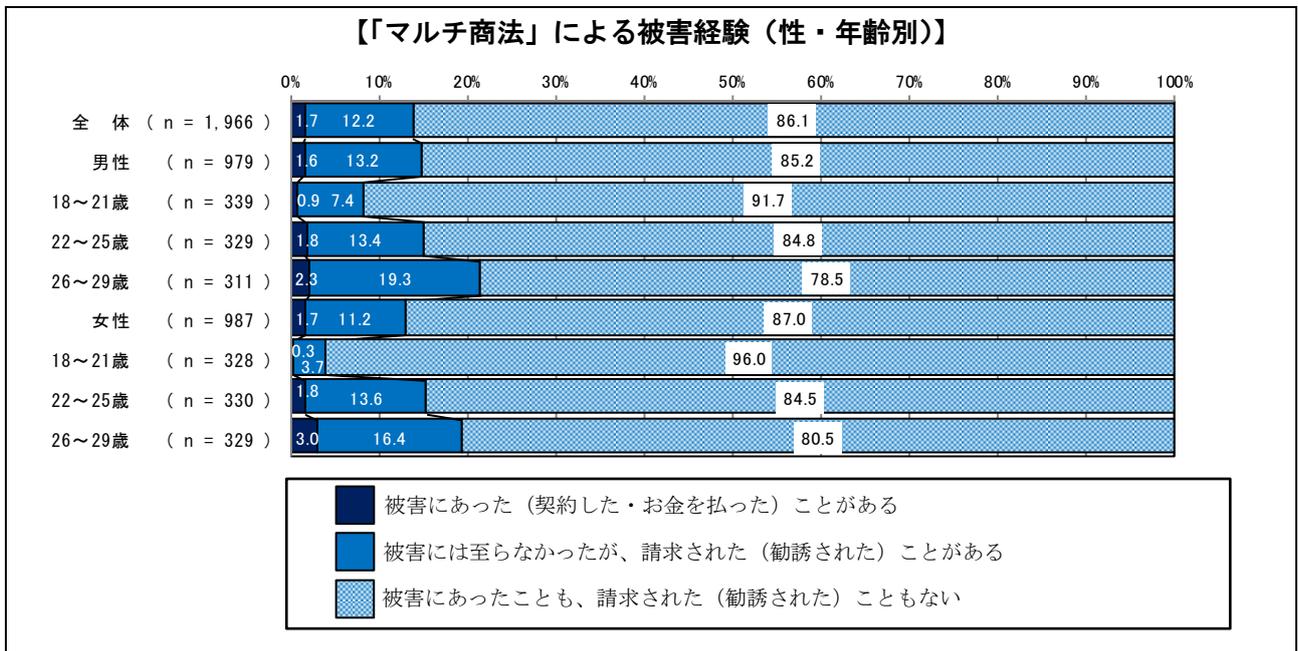
③ 「マルチ商法」による被害経験

「マルチ商法」による被害経験は、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」が1.7%、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」が12.2%、「被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない」が86.1%となっている。

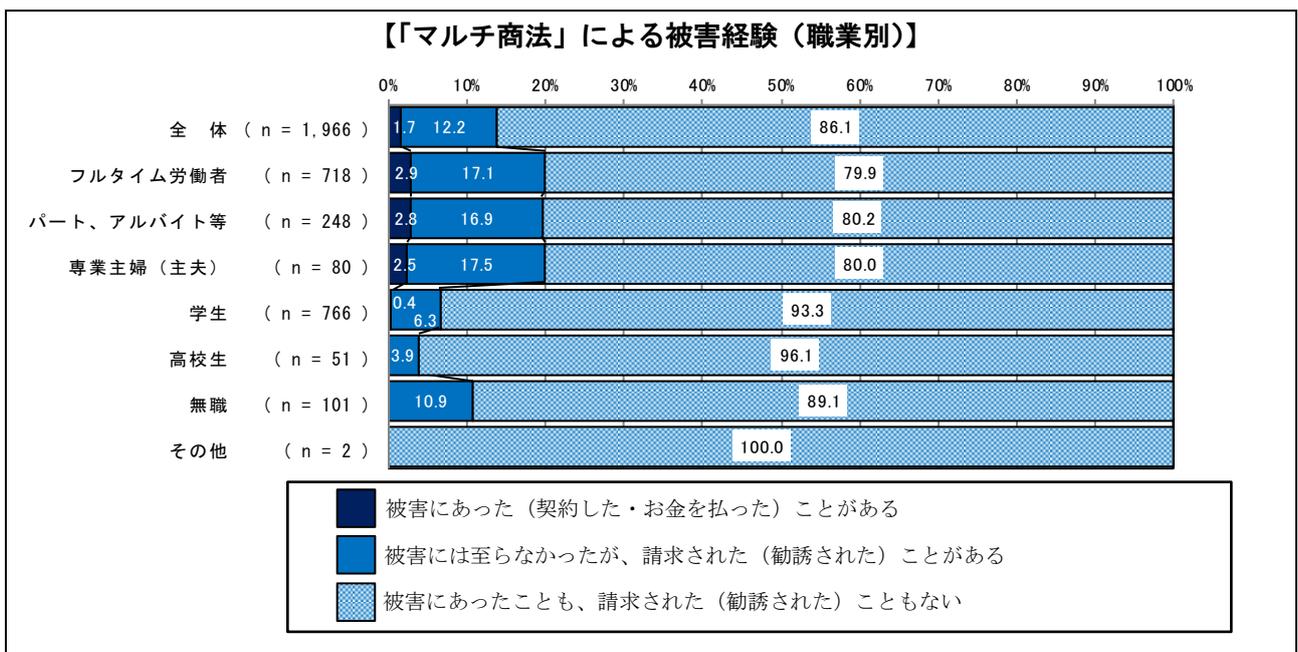
平成24年度と比較すると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」はほぼ横ばいであり、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、2.4ポイント増加している。



性・年齢別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、[女性・26～29歳]が3.0%で最も高くなっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、[男性・26～29歳]が19.3%で最も高くなっている。



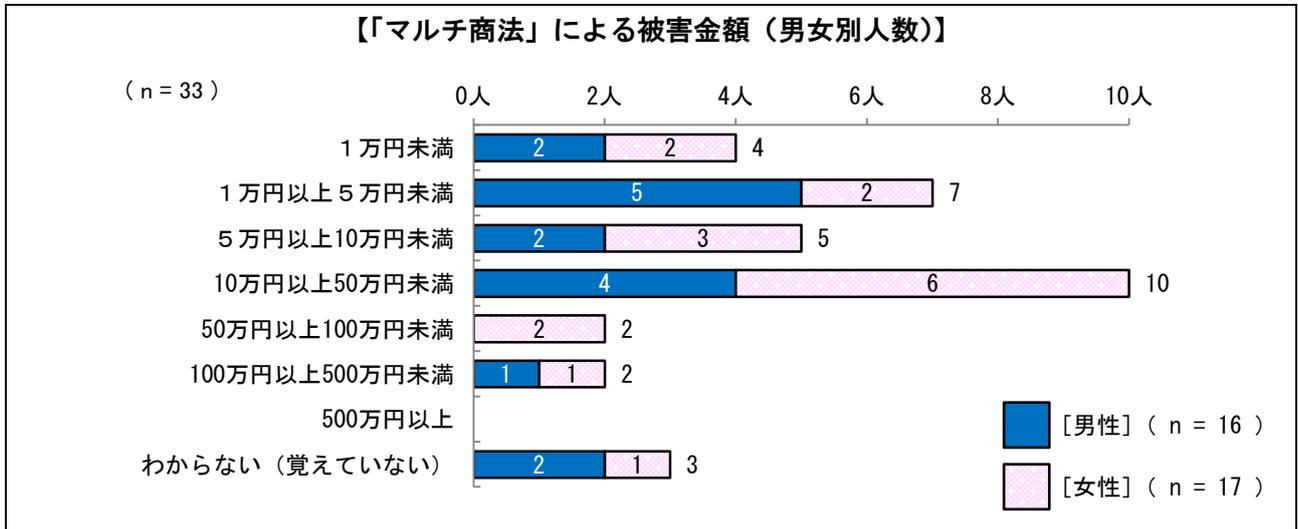
職業別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、[フルタイム労働者]が2.9%で最も高く、次いで[パート、アルバイト等]が2.8%、[専業主婦(主夫)]が2.5%となっている。



④ 「マルチ商法」による被害金額

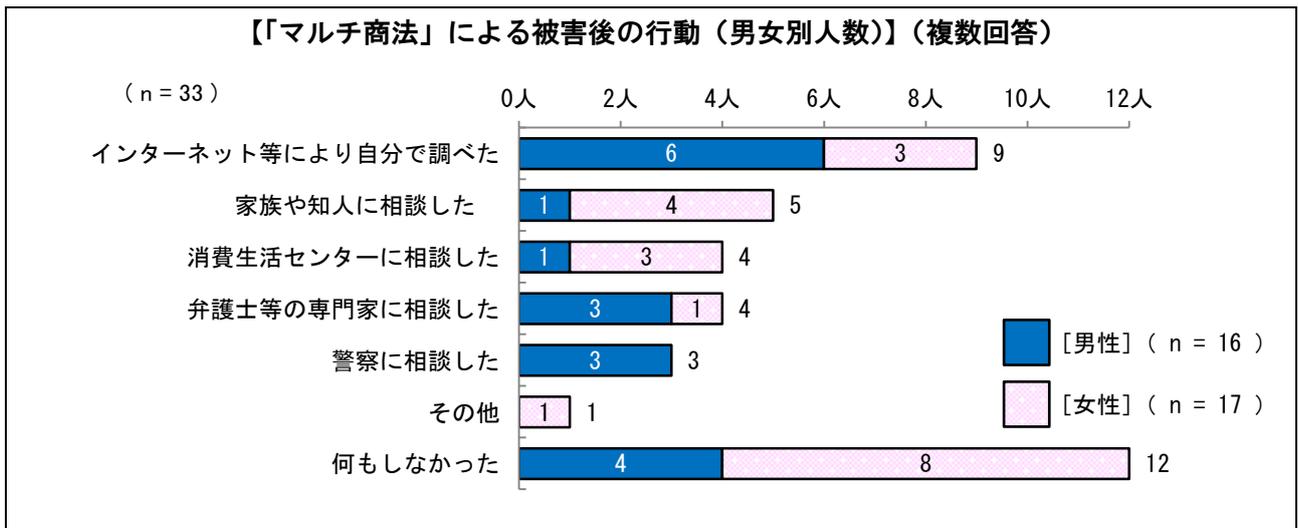
「マルチ商法」による被害経験者 33 人（男性 16 人、女性 17 人）の被害金額は、「10 万円以上 50 万円未満」が 10 人（男性 4 人、女性 6 人）で最も多く、次いで「1 万円以上 5 万円未満」が 7 人（男性 5 人、女性 2 人）となっている。

また、『10 万円以上』の高額の被害が 14 人（男性 5 人、女性 9 人）となっている。



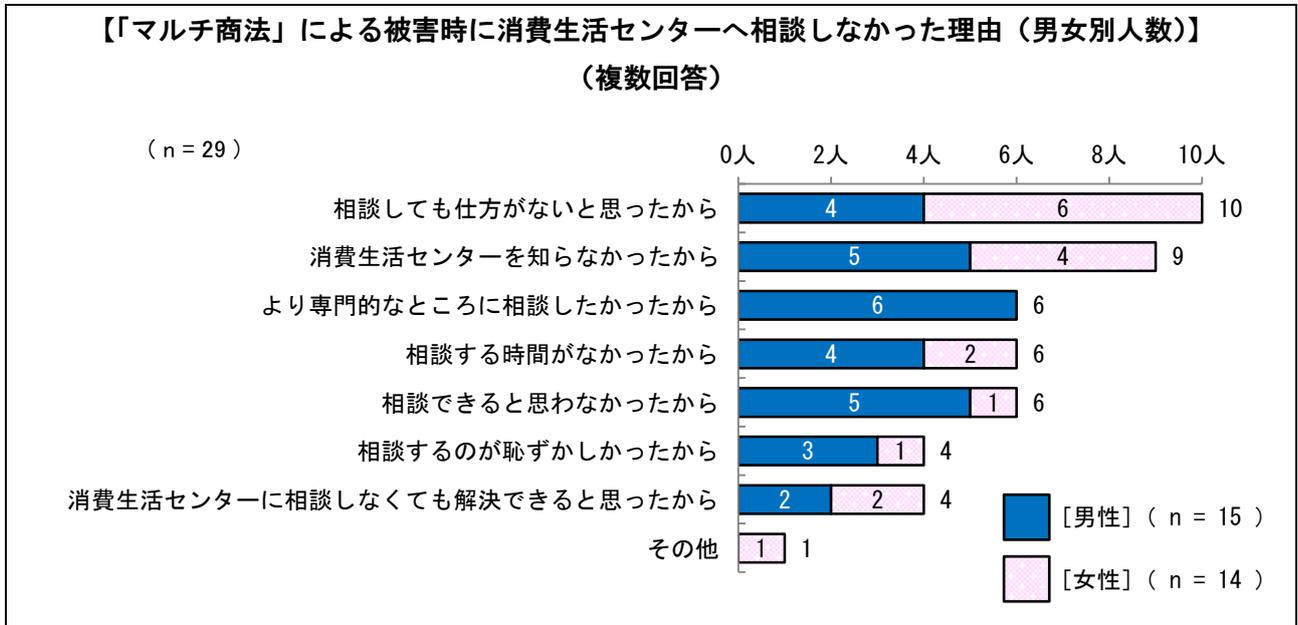
⑤ 「マルチ商法」による被害後の行動

「マルチ商法」による被害経験者 33 人（男性 16 人、女性 17 人）の被害後の行動は、「インターネット等により自分で調べた」が 9 人（男性 6 人、女性 3 人）で最も多く、次いで「家族や知人に相談した」が 5 人（男性 1 人、女性 4 人）となっている。「何もしなかった」が 12 人（男性 4 人、女性 8 人）となっている。



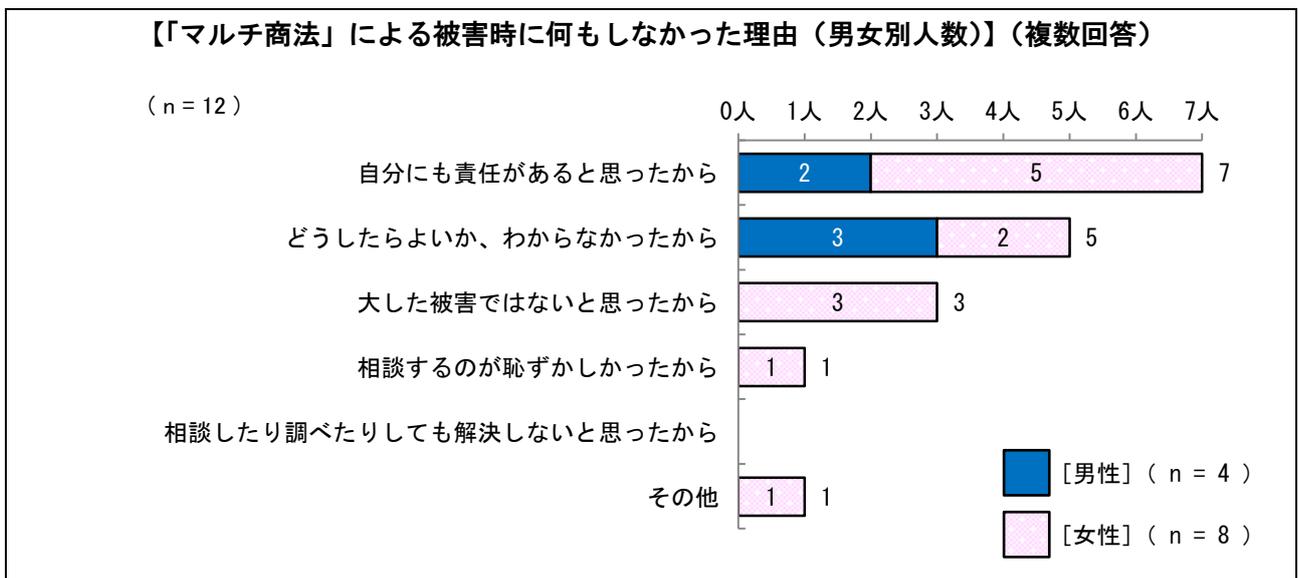
⑥ 「マルチ商法」による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由

「マルチ商法」による被害経験者のうち、被害時に消費生活センターへ相談しなかった 29 人（男性 15 人、女性 14 人）の理由は、「相談しても仕方がないと思ったから」が 10 人（男性 4 人、女性 6 人）で最も多く、次いで「消費生活センターを知らなかったから」が 9 人（男性 5 人、女性 4 人）となっている。



⑦ 「マルチ商法」による被害時に何もしなかった理由

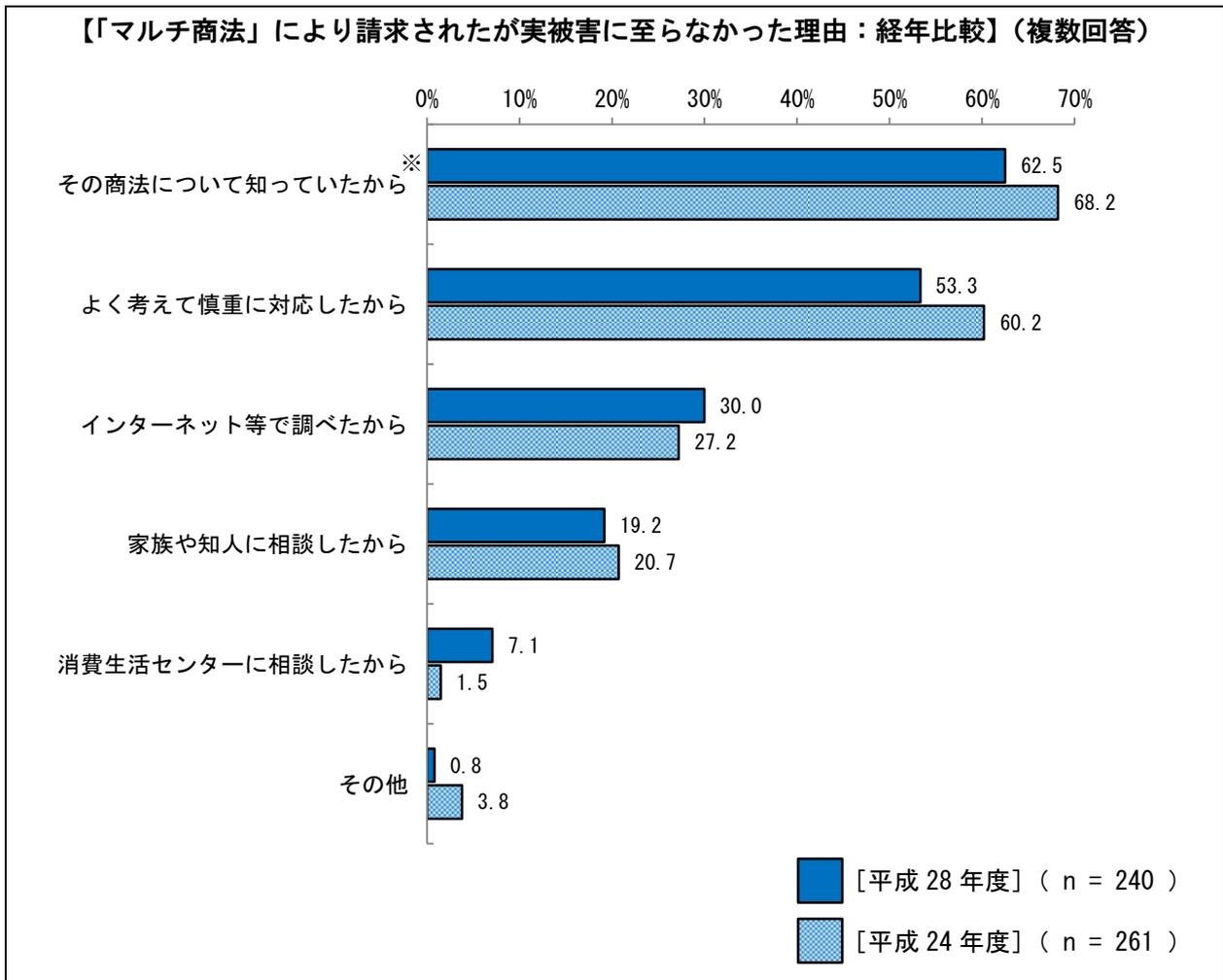
「マルチ商法」による被害経験者のうち、被害時に何もしなかった 12 人（男性 4 人、女性 8 人）の理由は、「自分にも責任があると思ったから」が 7 人（男性 2 人、女性 5 人）で最も多く、次いで「どうしたらよいか、わからなかったから」が 5 人（男性 3 人、女性 2 人）となっている。



⑧ 「マルチ商法」により請求されたが実被害に至らなかった理由

「マルチ商法」により請求されたが実被害に至らなかった人（240 人）の理由は、「その商法について知っていたから」が 62.5%で最も高くなっている。次いで「よく考えて慎重に対応したから」が 53.3%、「インターネット等で調べたから」が 30.0%となっている。

平成 24 年度と比較すると、「よく考えて慎重に対応したから」は、前回（60.2%）に比べ、6.9 ポイント減少している。一方、「消費生活センターに相談したから」は、前回（1.5%）に比べ、5.6 ポイント増加している。



※ 平成 24 年度調査「その商法の手口を知っていたから」を平成 28 年度調査において「その商法について知っていたから」に変更した。軽微な変更な為、経年比較を行った。

性・年齢別にみると、男女ともにすべての年齢で「その商法について知っていたから」が1位となっており、[男性・26～29歳]が75.0%で最も高くなっている。また、[男性・18～21歳]及び[男性・22～25歳]では「よく考えて慎重に対応したから」が同率の1位となっている。

職業別にみると、[高校生]及び[無職]を除く区分で「その商法について知っていたから」が1位となっており、[フルタイム労働者]が69.9%で最も高くなっている。

【「マルチ商法」により請求されたが実被害に至らなかった理由（性・年齢別、職業別）】（複数回答）

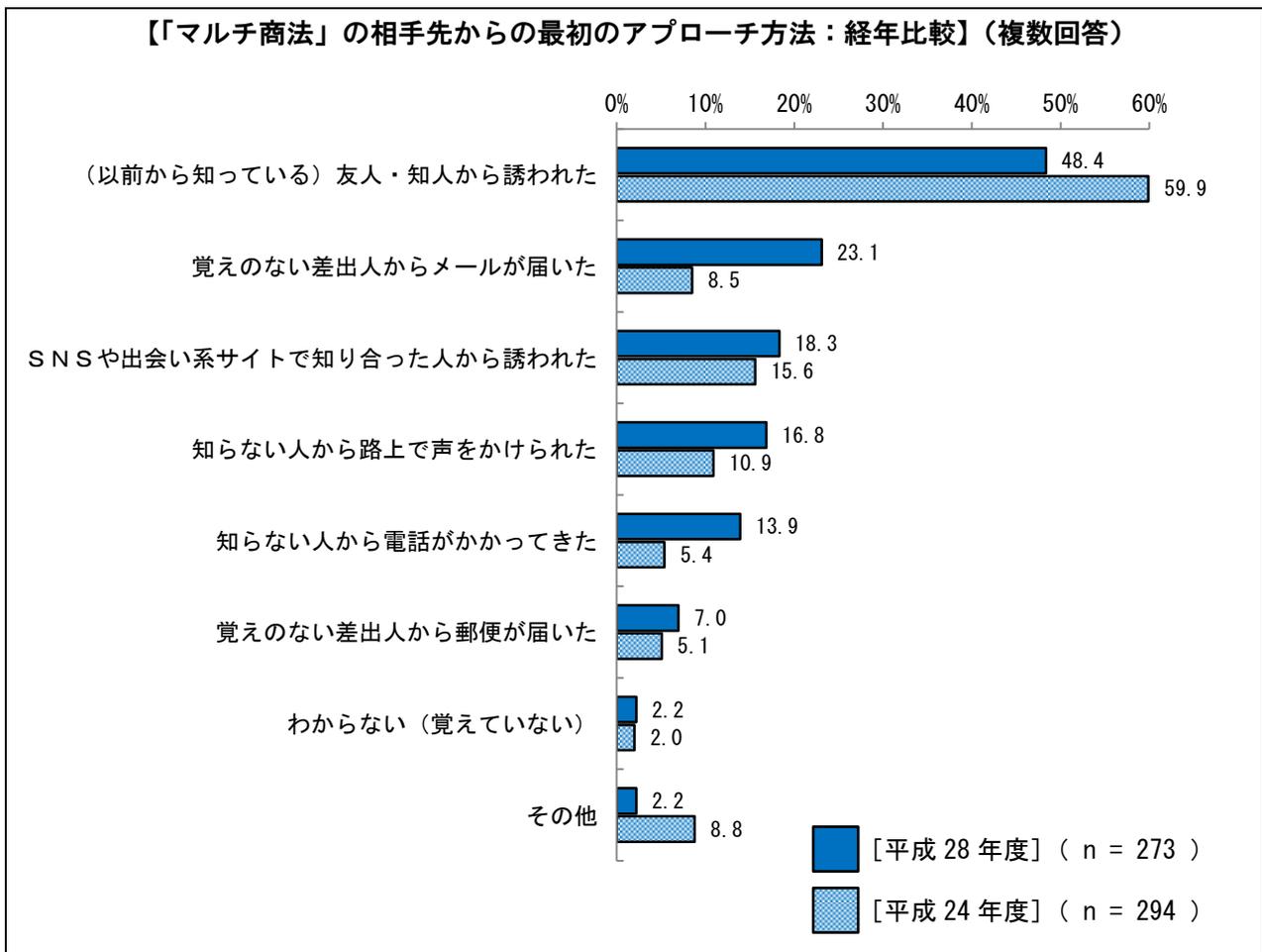
		(%)					
		その商法について知っていたから	よく考えて慎重に対応したから	インターネット等で	家族や知人から	消費生活センターに	その他
n							
全体	(240)	62.5	53.3	30.0	19.2	7.1	0.8
[性・年齢別]							
男性	(129)	64.3	57.4	29.5	7.8	10.1	-
18～21歳	(25)	52.0	52.0	16.0	12.0	8.0	-
22～25歳	(44)	56.8	56.8	38.6	6.8	9.1	-
26～29歳	(60)	75.0	60.0	28.3	6.7	11.7	-
女性	(111)	60.4	48.6	30.6	32.4	3.6	1.8
18～21歳	(12)	66.7	50.0	25.0	41.7	-	-
22～25歳	(45)	57.8	46.7	31.1	26.7	2.2	2.2
26～29歳	(54)	61.1	50.0	31.5	35.2	5.6	1.9
[職業別]							
フルタイム労働者	(123)	69.9	55.3	37.4	17.1	7.3	-
パート、アルバイト等	(42)	61.9	54.8	28.6	16.7	4.8	-
専業主婦（主夫）	(14)	57.1	35.7	7.1	35.7	-	-
学生	(48)	47.9	45.8	22.9	18.8	10.4	-
高校生	(2)	50.0	100.0	-	50.0	-	-
無職	(11)	54.5	72.7	18.2	27.3	9.1	18.2
その他	-	-	-	-	-	-	-

：網掛けは各性・年齢、職業で第1位の項目

⑨「マルチ商法」の相手先からの最初のアプローチ方法

「マルチ商法」により勧誘され被害にあった人及び勧誘されたが実被害に至らなかった人（273人）がアプローチされた方法は、「（以前から知っている）友人・知人から誘われた」が48.4%で最も高く、次いで「覚えのない差出人からメールが届いた」が23.1%、「SNSや出会い系サイトで知り合った人から誘われた」が18.3%、「知らない人から路上で声をかけられた」が16.8%、「知らない人から電話がかかってきた」が13.9%となっている。

平成24年度と比較すると、「（以前から知っている）友人・知人から誘われた」は、前回（59.9%）に比べ、11.5ポイント減少している。一方、「覚えのない差出人からメールが届いた」は、前回（8.5%）に比べ、14.6ポイント増加している。



性・年齢別にみると、男女ともにすべての年齢で「(以前から知っている)友人・知人から誘われた」が1位となっており、[女性・26～29歳]が62.5%で最も高くなっている。

職業別にみると、[高校生]及び[無職]を除く区分で「(以前から知っている)友人・知人から誘われた」が1位となっており、[パート、アルバイト等]が69.4%で最も高くなっている。

【「マルチ商法」の相手先からの最初のアプローチ方法(性・年齢別、職業別)】(複数回答)

		(%)								
		n	(以前から知っている友人・知人から誘われた)	覚えのない差出人からメールが届いた	SNSや出会い系サイトで知り合った人から誘われた	知らない人から路上で声をかけられた	知らない人から電話がかかってきた	覚えのない差出人から郵便が届いた	わからない(覚えていない)	その他
全体		(273)	48.4	23.1	18.3	16.8	13.9	7.0	2.2	2.2
[性・年齢別]										
男性		(145)	42.1	23.4	24.1	20.7	20.7	9.0	2.1	-
18	～ 21 歳	(28)	28.6	25.0	17.9	17.9	21.4	7.1	3.6	-
22	～ 25 歳	(50)	50.0	16.0	32.0	18.0	16.0	6.0	-	-
26	～ 29 歳	(67)	41.8	28.4	20.9	23.9	23.9	11.9	3.0	-
女性		(128)	55.5	22.7	11.7	12.5	6.3	4.7	2.3	4.7
18	～ 21 歳	(13)	38.5	38.5	-	23.1	7.7	7.7	7.7	7.7
22	～ 25 歳	(51)	51.0	19.6	11.8	15.7	9.8	5.9	3.9	2.0
26	～ 29 歳	(64)	62.5	21.9	14.1	7.8	3.1	3.1	-	6.3
[職業別]										
フルタイム労働者		(144)	46.5	23.6	22.9	19.4	14.6	8.3	2.1	1.4
パート、アルバイト等		(49)	69.4	10.2	10.2	10.2	8.2	2.0	-	4.1
専業主婦(主夫)		(16)	62.5	18.8	6.3	12.5	-	-	6.3	-
学生		(51)	35.3	29.4	19.6	17.6	21.6	9.8	3.9	2.0
高校生		(2)	-	100.0	-	-	-	-	-	-
無職		(11)	27.3	36.4	9.1	18.2	18.2	9.1	-	9.1
その他		-	-	-	-	-	-	-	-	-

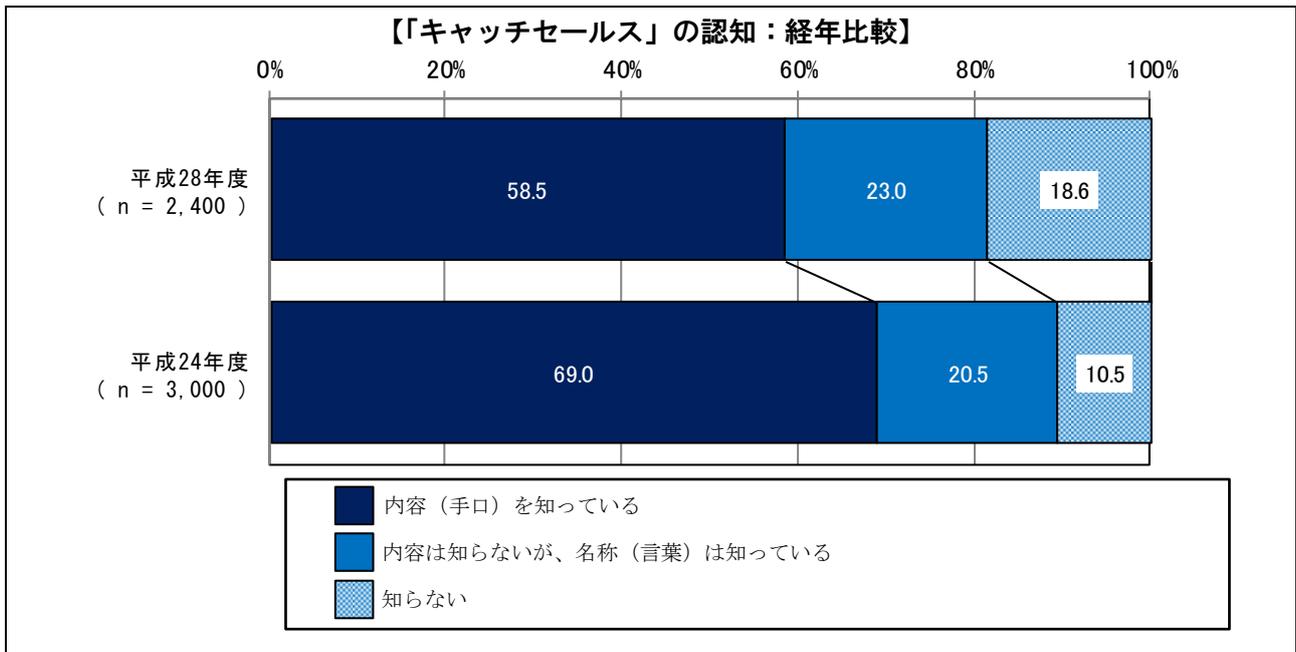
：網掛けは各性・年齢、職業で第1位の項目

(4) 悪質商法の被害等の経験（キャッチセールス）

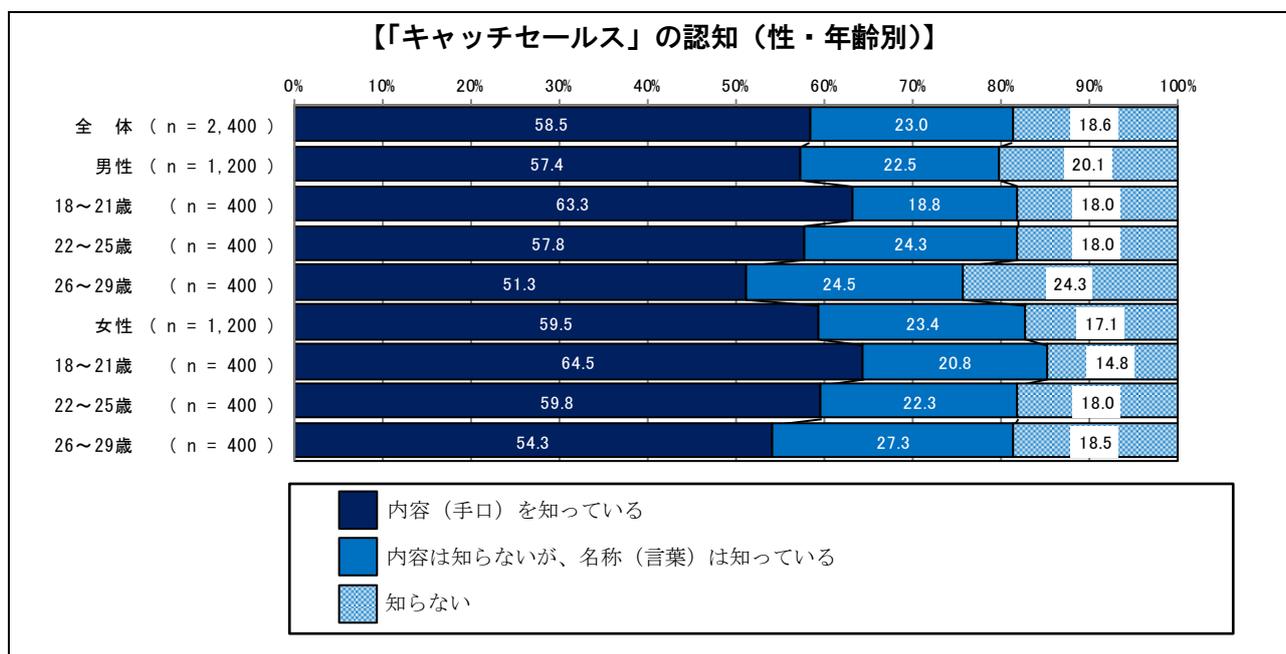
① 「キャッチセールス」の認知

「キャッチセールス」の認知は、「内容（手口）を知っている」が 58.5%、「内容は知らないが、名称（言葉）は知っている」が 23.0%、「知らない」が 18.6%となっている。

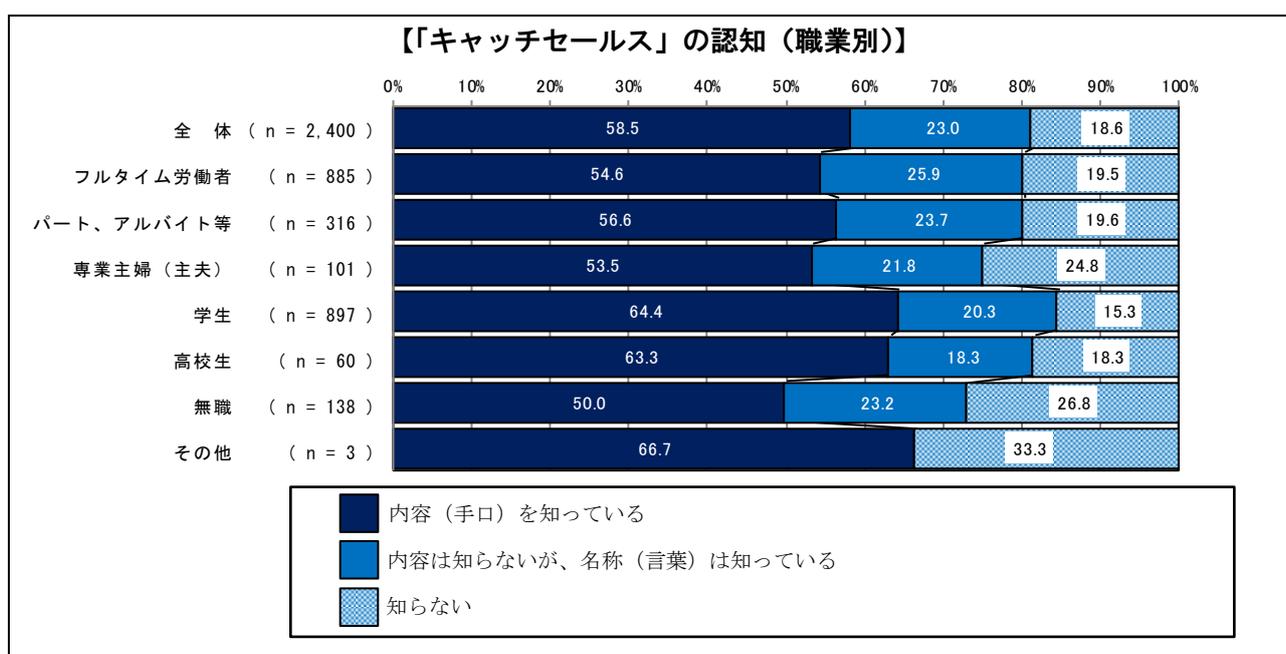
平成 24 年度と比較すると、「内容（手口）を知っている」は、前回（69.0%）に比べ、10.5 ポイント減少している。



性・年齢別にみると、「内容（手口）を知っている」は、すべての年齢で〔女性〕が〔男性〕を上回っており、特に〔女性・18～21歳〕が64.5%で最も高く、次いで〔男性・18～21歳〕が63.3%となっている。



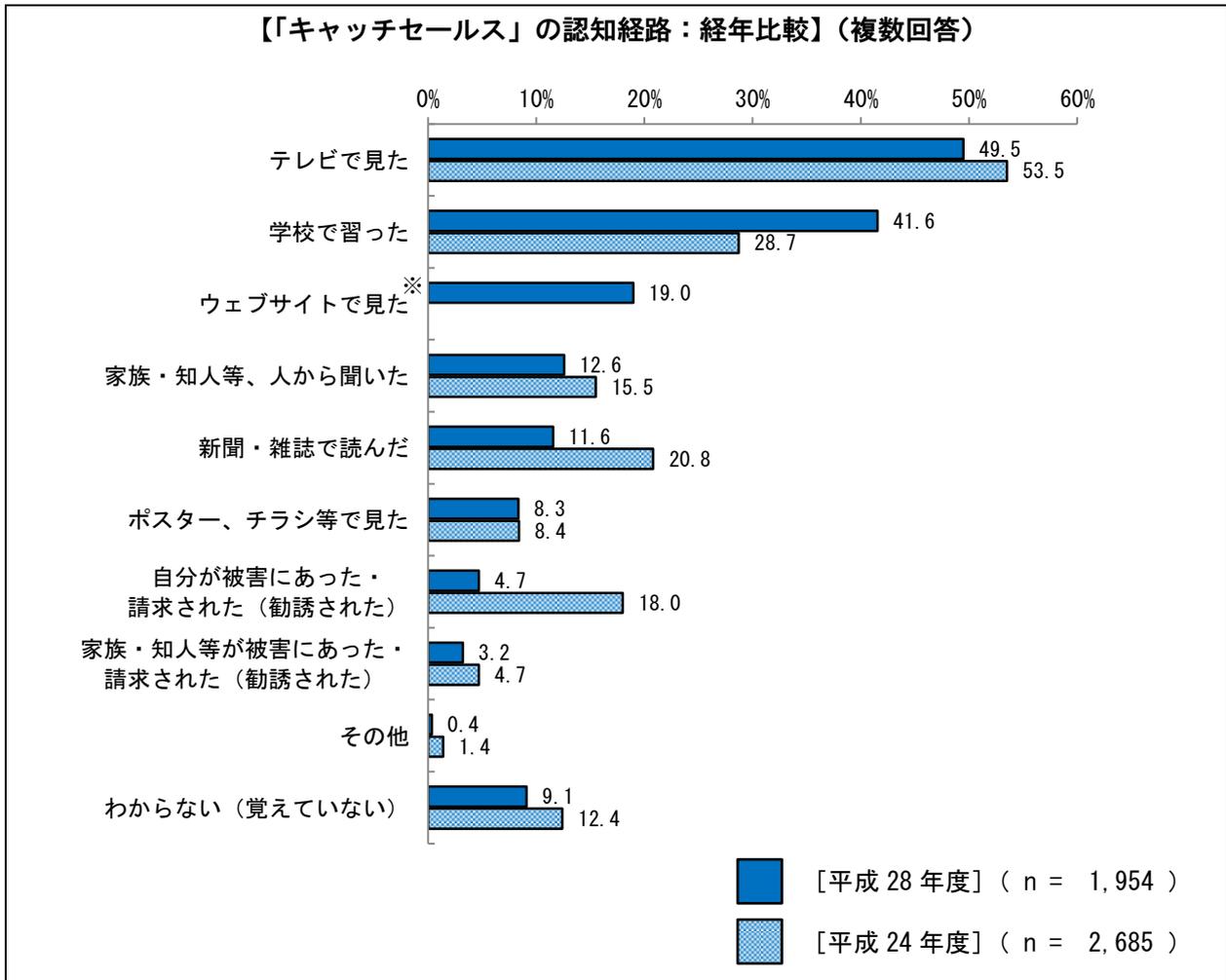
職業別にみると、「内容（手口）を知っている」は、〔学生〕が64.4%で最も高く、次いで〔高校生〕が63.3%となっている。「内容は知らないが、名称（言葉）は知っている」は、〔フルタイム労働者〕が25.9%、「知らない」は、〔無職〕が26.8%で最も高くなっている。



②「キャッチセールス」の認知経路

「キャッチセールス」という悪質商法を認知している人（1,954人）の認知経路は、「テレビで見た」が49.5%で最も高く、次いで「学校で習った」が41.6%、「ウェブサイトで見た」が19.0%、「家族・知人等、人から聞いた」が12.6%、「新聞・雑誌で読んだ」が11.6%となっている。

平成24年度と比較すると、「学校で習った」は、前回（28.7%）に比べ、12.9ポイント増加している。一方、「自分が被害にあった・請求された（勧誘された）」は、前回（18.0%）に比べ、13.3ポイント減少している。



※ 選択肢「ウェブサイトで見た」を平成28年度調査において新規に追加した。

性・年齢別にみると、男女ともに〔22～25歳〕及び〔26～29歳〕で「テレビで見た」が1位となっており、〔18～21歳〕では「学校で習った」が1位となっている。「ウェブサイトで見えた」は〔男性・26～29歳〕が29.0%と他の区分より高くなっている。

職業別にみると、〔学生〕及び〔高校生〕を除く区分で「テレビで見た」が1位となっており、〔学生〕（62.8%）及び〔高校生〕（81.6%）では「学校で習った」が1位となっている。「テレビで見た」は〔専業主婦（主夫）〕が76.3%と他の区分より高くなっている。

【「キャッチセールス」の認知経路（性・年齢別、職業別）】（複数回答）

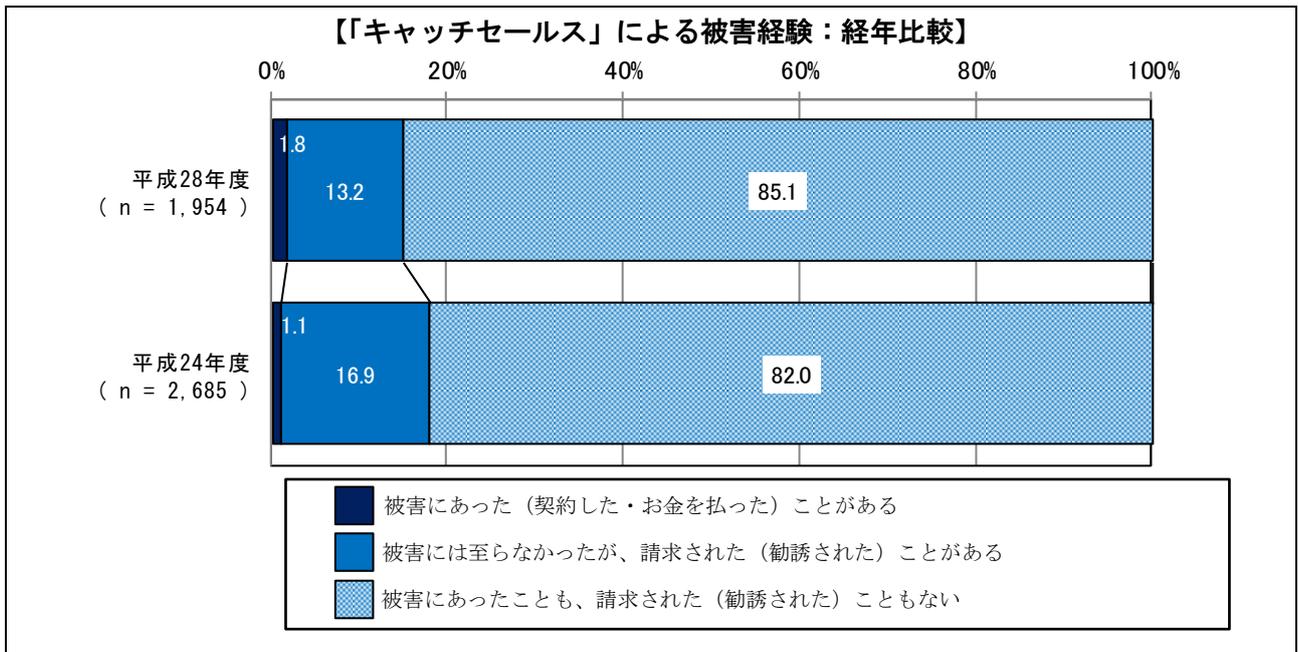
		(%)									
n		テレビで見た	学校で習った	ウェブサイトで見えた	家族・知人等、人から聞いた	新聞・雑誌で読んだ	ポスター、チラシ等で見えた	自分が被害にあった・請求された（勧誘された）	家族・知人等が被害にあつた・請求された（勧誘された）	その他	わからない（覚えていない）
全体	(1,954)	49.5	41.6	19.0	12.6	11.6	8.3	4.7	3.2	0.4	9.1
〔性・年齢別〕											
男性	(959)	47.5	39.5	24.0	12.5	14.8	10.3	3.9	3.0	0.2	10.7
18～21歳	(328)	39.0	65.2	19.2	10.1	12.5	10.7	2.4	1.5	0.3	6.4
22～25歳	(328)	48.8	33.2	24.1	15.2	11.3	7.0	4.0	1.8	-	10.7
26～29歳	(303)	55.4	18.5	29.0	12.2	21.1	13.5	5.3	5.9	0.3	15.5
女性	(995)	51.4	43.5	14.2	12.7	8.4	6.4	5.5	3.4	0.5	7.5
18～21歳	(341)	35.8	70.1	10.6	7.3	6.7	5.6	4.4	2.6	0.6	5.9
22～25歳	(328)	57.0	38.4	14.9	13.7	7.0	7.6	4.0	2.4	0.6	7.3
26～29歳	(326)	62.0	20.9	17.2	17.2	11.7	6.1	8.3	5.2	0.3	9.5
〔職業別〕											
フルタイム労働者	(712)	56.5	26.0	23.9	16.6	15.3	9.7	6.2	3.8	0.6	10.1
パート、アルバイト等	(254)	52.4	29.1	18.5	11.0	9.8	7.1	5.1	3.5	-	8.7
専業主婦（主夫）	(76)	76.3	17.1	10.5	6.6	3.9	3.9	3.9	2.6	-	3.9
学生	(760)	39.9	62.8	16.6	11.1	10.5	8.3	3.4	2.4	0.4	6.8
高校生	(49)	34.7	81.6	10.2	6.1	2.0	4.1	4.1	4.1	-	4.1
無職	(101)	51.5	21.8	14.9	7.9	7.9	7.9	4.0	4.0	-	26.7
その他	(2)	100.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-

：網掛けは各性・年齢、職業で第1位の項目

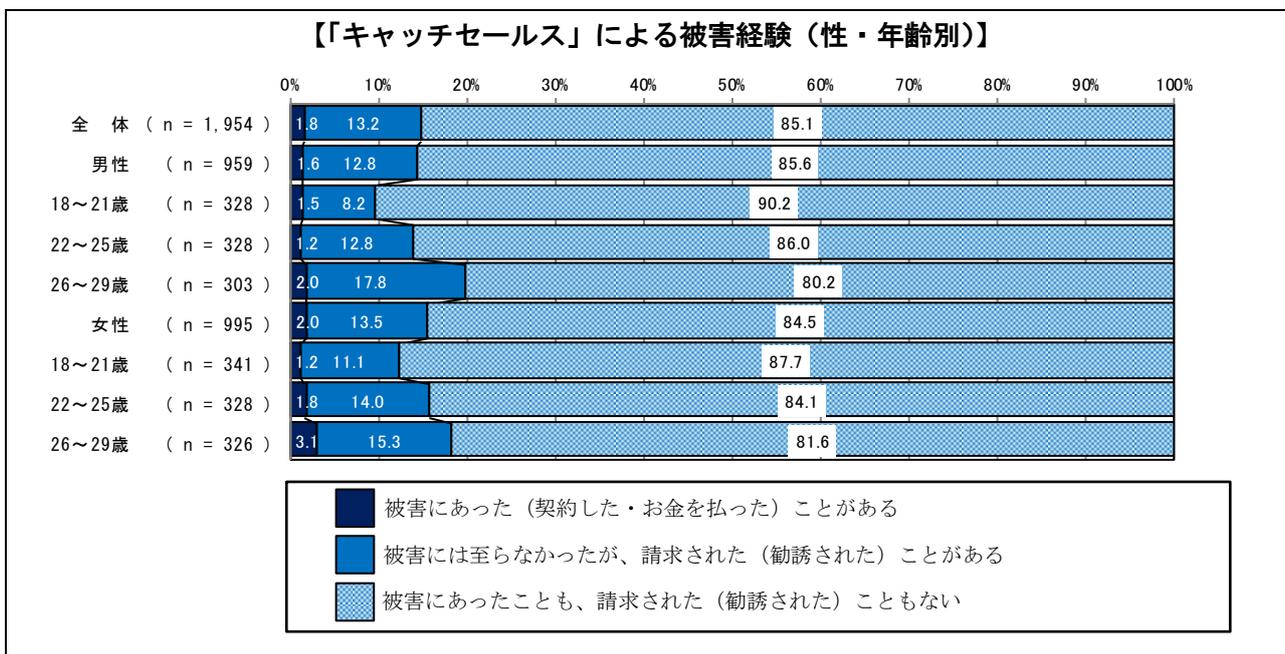
③ 「キャッチセールス」による被害経験

「キャッチセールス」による被害経験は、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」が 1.8%、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」が 13.2%、「被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない」が 85.1%となっている。

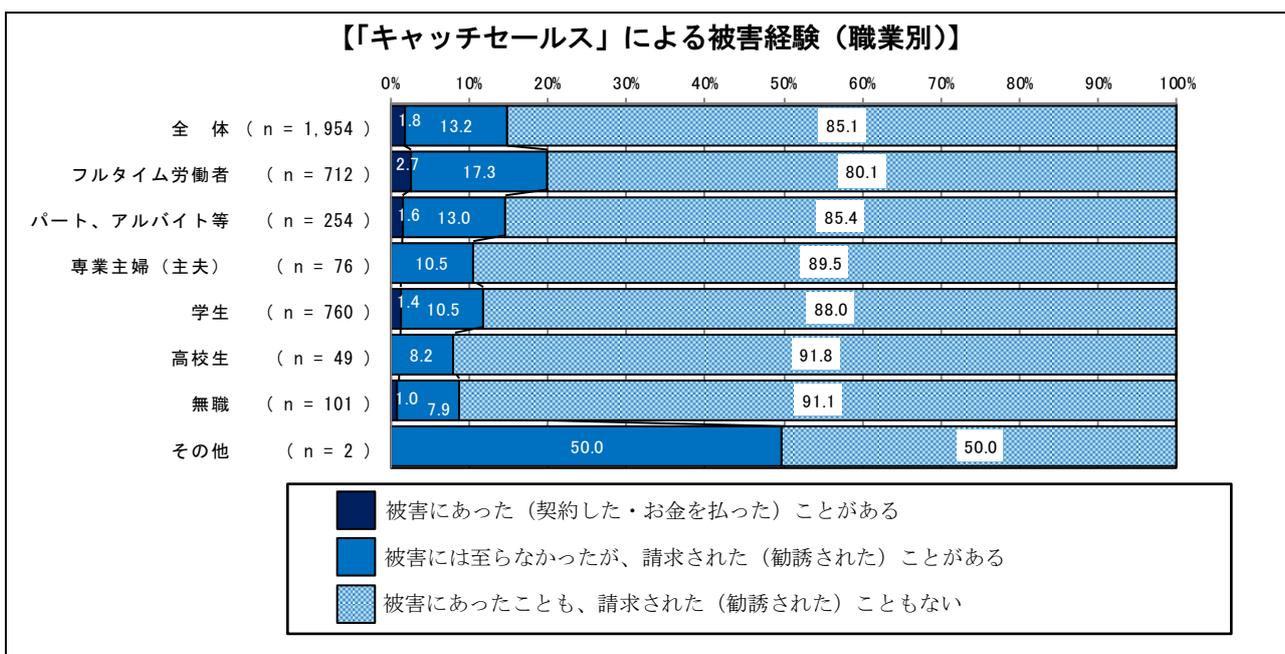
平成 24 年度と比較すると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」はほぼ横ばいであり、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、前回（16.9%）に比べ、3.7 ポイント減少している。



性・年齢別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、[女性・26～29歳]が3.1%で最も高くなっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、[男性・26～29歳]が17.8%で最も高くなっている。

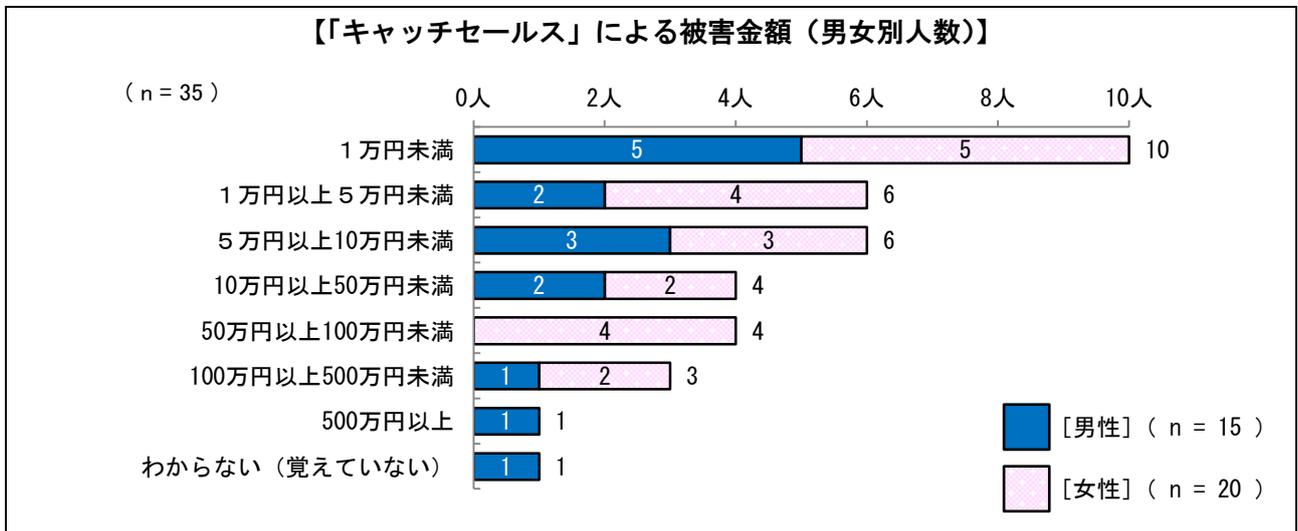


職業別にみると、[フルタイム労働者]が「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」（2.7%）、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」（17.3%）でともに最も高くなっている。



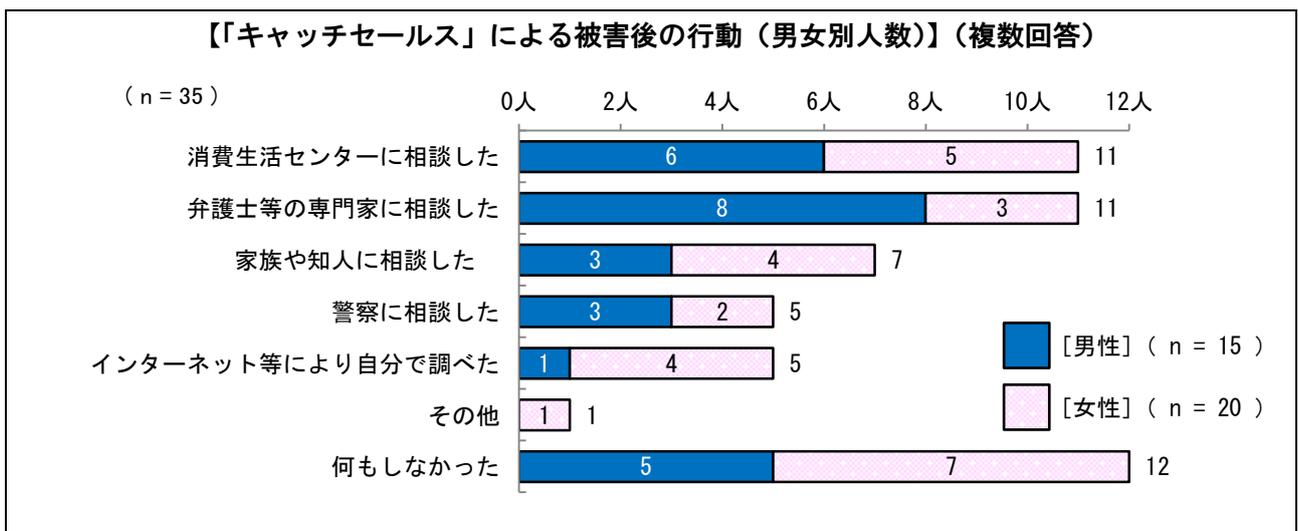
④ 「キャッチセールス」による被害金額

「キャッチセールス」による被害経験者 35 人（男性 15 人、女性 20 人）の被害金額は、「1 万円未満」が 10 人（男性 5 人、女性 5 人）で最も多く、次いで「1 万円以上 5 万円未満」（男性 2 人、女性 4 人）及び「5 万円以上 10 万円未満」（男性 3 人、女性 3 人）が 6 人となっている。また、『10 万円以上』の高額の被害が 12 人（男性 4 人、女性 8 人）となっている。



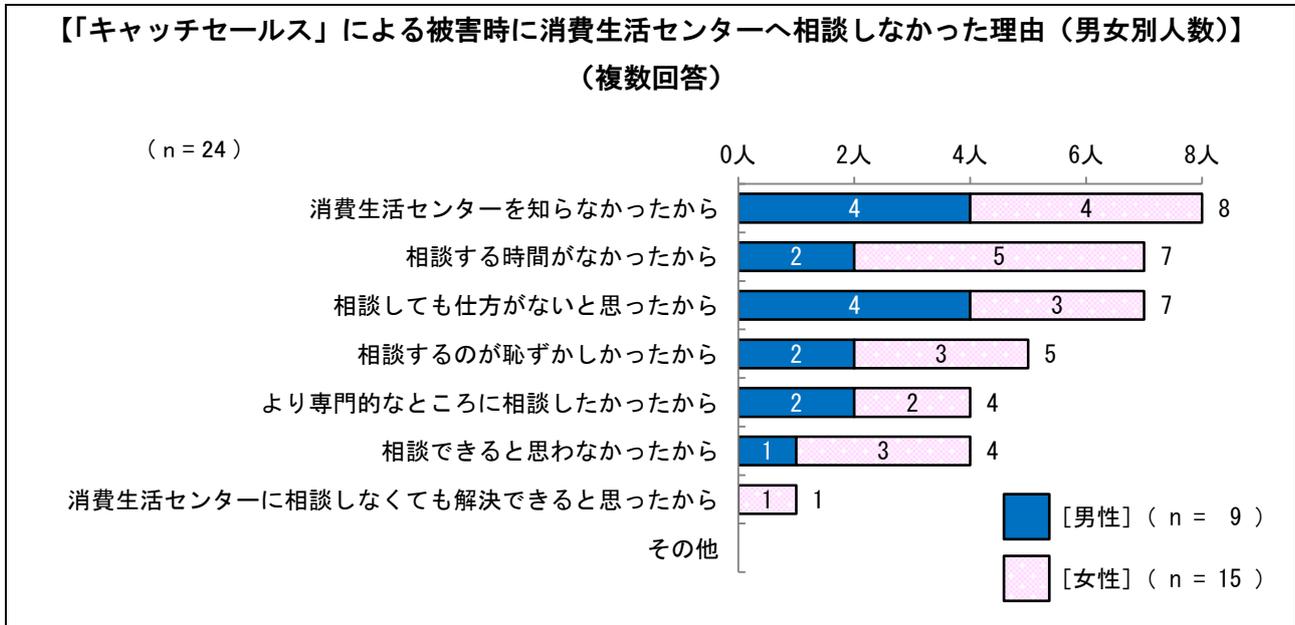
⑤ 「キャッチセールス」による被害後の行動

「キャッチセールス」による被害経験者 35 人（男性 15 人、女性 20 人）の被害後の行動は、「消費生活センターに相談した」（男性 6 人、女性 5 人）及び「弁護士等の専門家に相談した」（男性 8 人、女性 3 人）がともに 11 人となっている。「何もしなかった」が 12 人（男性 5 人、女性 7 人）となっている。



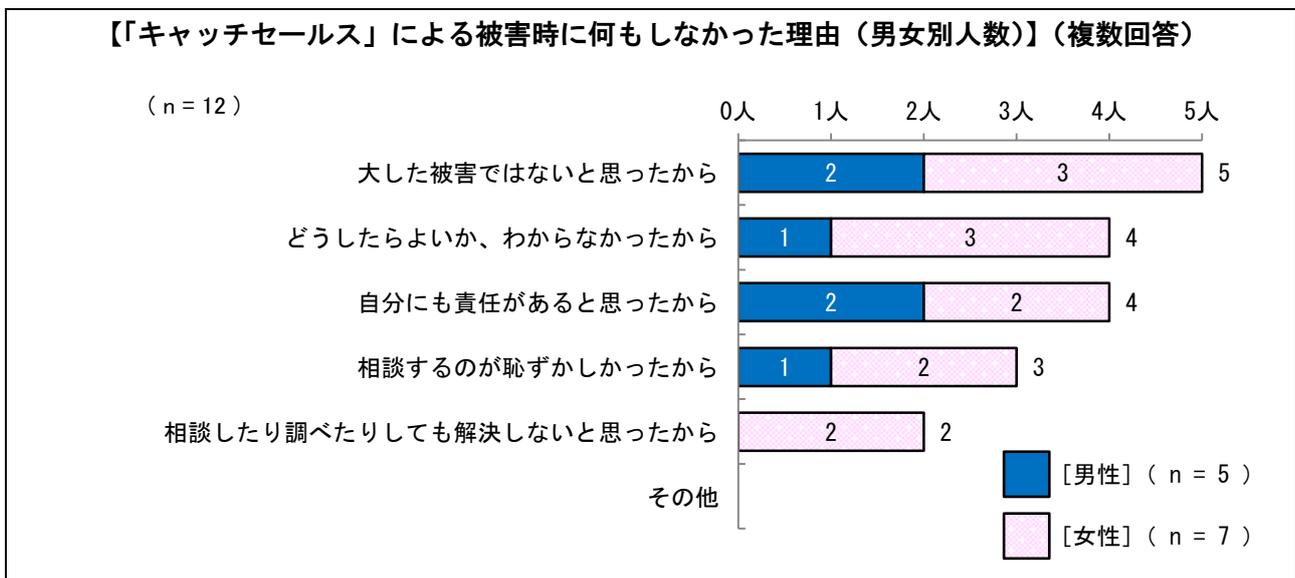
⑥ 「キャッチセールス」による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由

「キャッチセールス」による被害経験者のうち、被害時に消費生活センターへ相談しなかった24人（男性9人、女性15人）の理由は、「消費生活センターを知らなかったから」が8人（男性4人、女性4人）で最も多く、次いで「相談する時間がなかったから」（男性2人、女性5人）及び「相談しても仕方がないと思ったから」（男性4人、女性3人）がともに7人となっている。



⑦ 「キャッチセールス」による被害時に何もしなかった理由

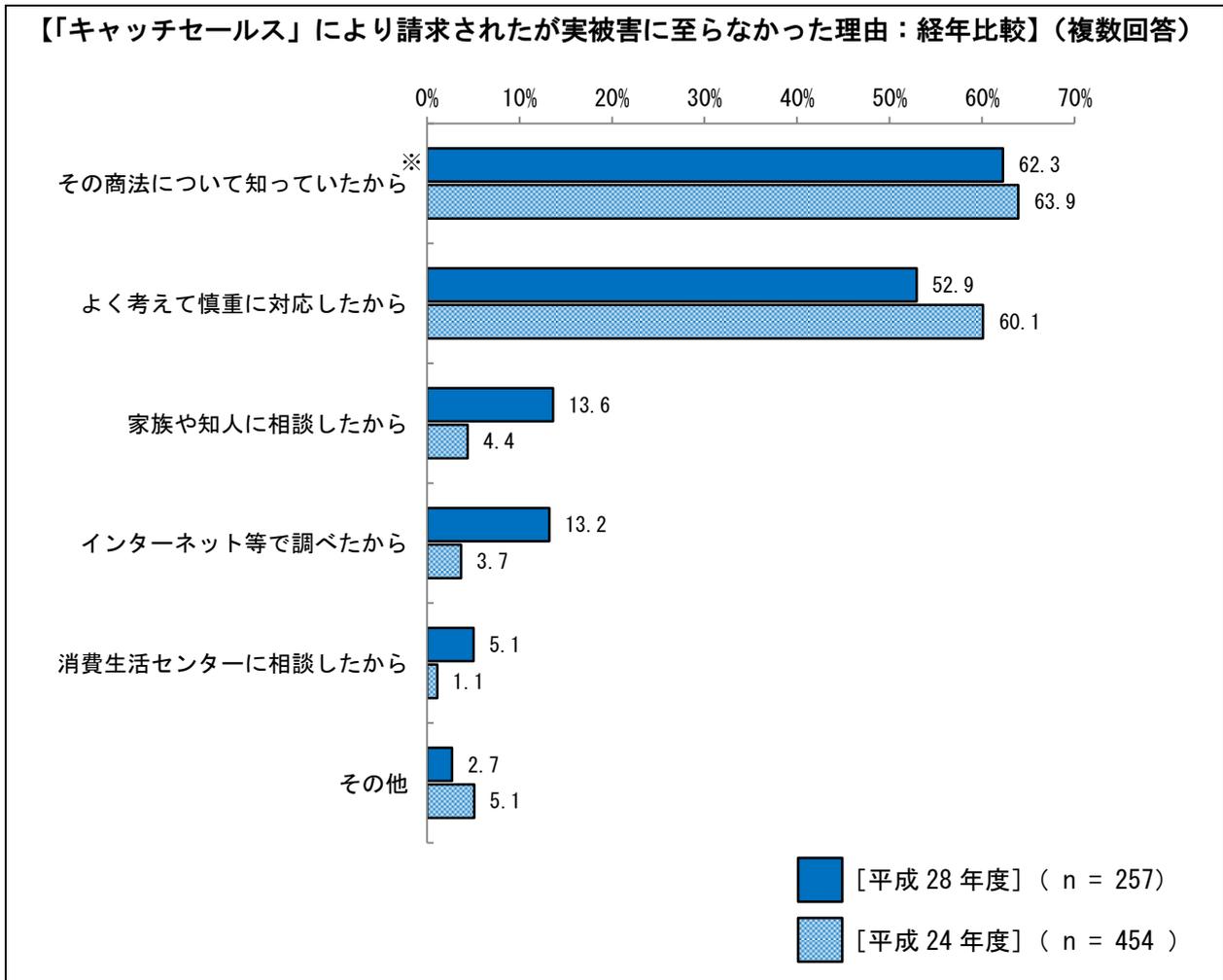
「キャッチセールス」による被害経験者のうち、被害時に何もしなかった12人（男性5人、女性7人）の理由は、「大した被害ではないと思ったから」が5人（男性2人、女性3人）で最も多く、次いで「どうしたらよいか、わからなかったから」（男性1人、女性3人）及び「自分にも責任があると思ったから」（男性2人、女性2人）がともに4人となっている。



⑧ 「キャッチセールス」により請求されたが実被害に至らなかった理由

「キャッチセールス」により請求されたが実被害に至らなかった人（257人）の理由は、「その商法について知っていたから」が62.3%で最も高くなっている。次いで「よく考えて慎重に対応したから」が52.9%となっている。

平成24年度と比較すると、「インターネット等で調べたから」は、前回（3.7%）に比べ、9.5ポイント増加している。



※ 平成24年度調査「その商法の手口を知っていたから」を平成28年度調査において「その商法について知っていたから」に変更した。軽微な変更な為、経年比較を行った。

性・年齢別にみると、[男性・22～25 歳] を除く区分で「その商法について知っていたから」が1位となっており、[男性・18～21 歳] が 70.4%で最も高くなっている。[男性・22～25 歳] は「よく考えて慎重に対応したから」が 61.9%で最も高くなっている。

職業別にみると、[フルタイム労働者] を除く区分で「その商法について知っていたから」が1位となっている。[フルタイム労働者] は「よく考えて慎重に対応したから」が 59.3%で最も高くなっている。

【「キャッチセールス」により請求されたが実被害に至らなかった理由（性・年齢別、職業別）】
（複数回答）

		(%)					
		その商法について知っていたから	よく考えて慎重に対応したから	家族や知人から相談したから	インターネット等で調べたから	消費生活センターに相談したから	その他
n							
全 体	(257)	62.3	52.9	13.6	13.2	5.1	2.7
[性 ・ 年 齢 別]							
男 性	(123)	64.2	56.1	8.9	10.6	8.1	1.6
18 ～ 21 歳	(27)	70.4	40.7	3.7	11.1	11.1	3.7
22 ～ 25 歳	(42)	57.1	61.9	7.1	7.1	4.8	-
26 ～ 29 歳	(54)	66.7	59.3	13.0	13.0	9.3	1.9
女 性	(134)	60.4	50.0	17.9	15.7	2.2	3.7
18 ～ 21 歳	(38)	63.2	50.0	13.2	21.1	-	2.6
22 ～ 25 歳	(46)	54.3	50.0	21.7	13.0	4.3	6.5
26 ～ 29 歳	(50)	64.0	50.0	18.0	14.0	2.0	2.0
[職 業 別]							
フルタイム労働者	(123)	57.7	59.3	14.6	13.8	4.9	2.4
パート、アルバイト等	(33)	66.7	54.5	15.2	18.2	3.0	-
専業主婦（主夫）	(8)	75.0	25.0	12.5	-	12.5	-
学 生	(80)	65.0	48.8	11.3	11.3	5.0	2.5
高 校 生	(4)	75.0	25.0	-	25.0	-	-
無 職	(8)	62.5	37.5	25.0	12.5	12.5	25.0
そ の 他	(1)	100.0	-	-	-	-	-

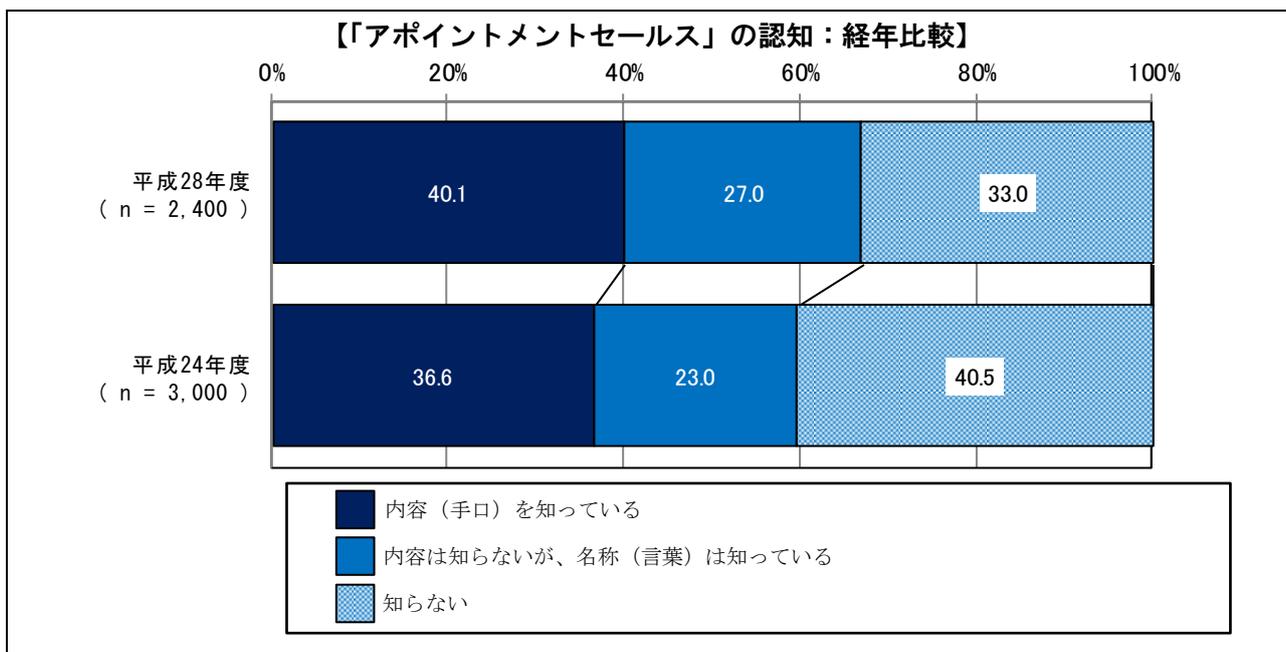
：網掛けは各性・年齢、職業で第1位の項目

(5) 悪質商法の被害等の経験（アポイントメントセールス）

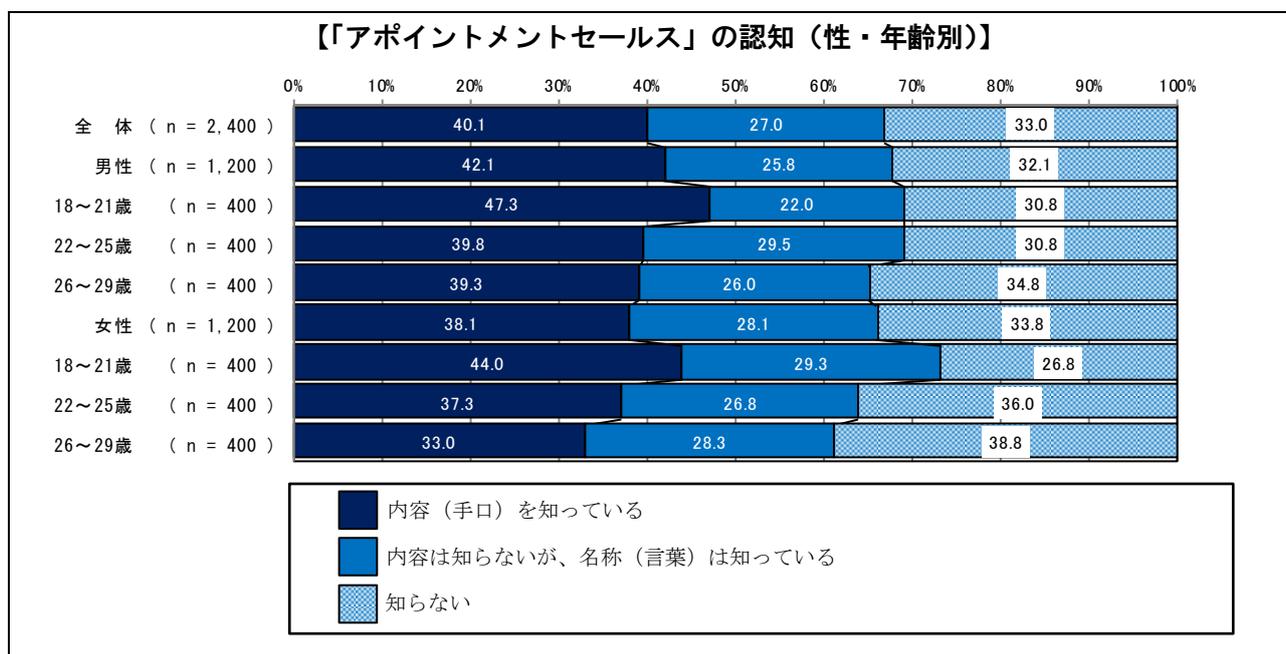
① 「アポイントメントセールス」の認知

「アポイントメントセールス」の認知は、「内容（手口）を知っている」が 40.1%、「内容は知らないが、名称（言葉）は知っている」が 27.0%、「知らない」が 33.0%となっている。

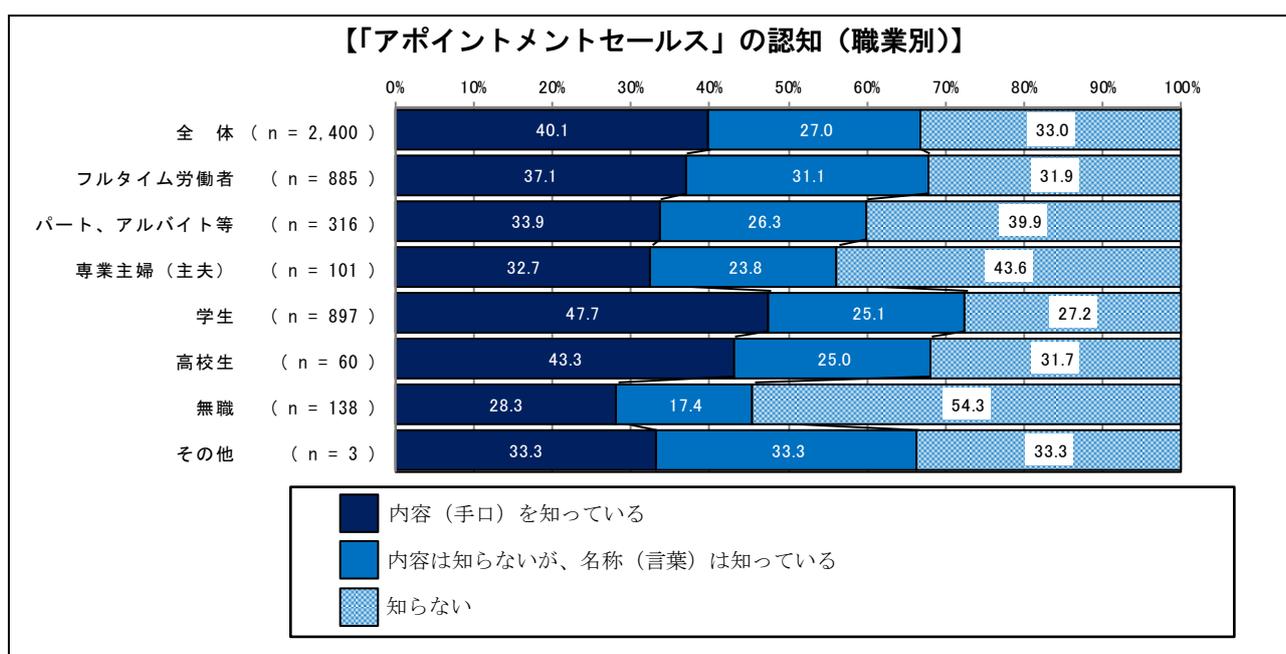
平成 24 年度と比較すると、「内容（手口）を知っている」は、前回（36.6%）に比べ、3.5 ポイント増加している。



性・年齢別にみると、「内容（手口）を知っている」は、すべての年齢で〔男性〕が〔女性〕を上回っており、特に〔男性・18～21歳〕が47.3%で最も高く、次いで〔女性・18～21歳〕が44.0%となっている。



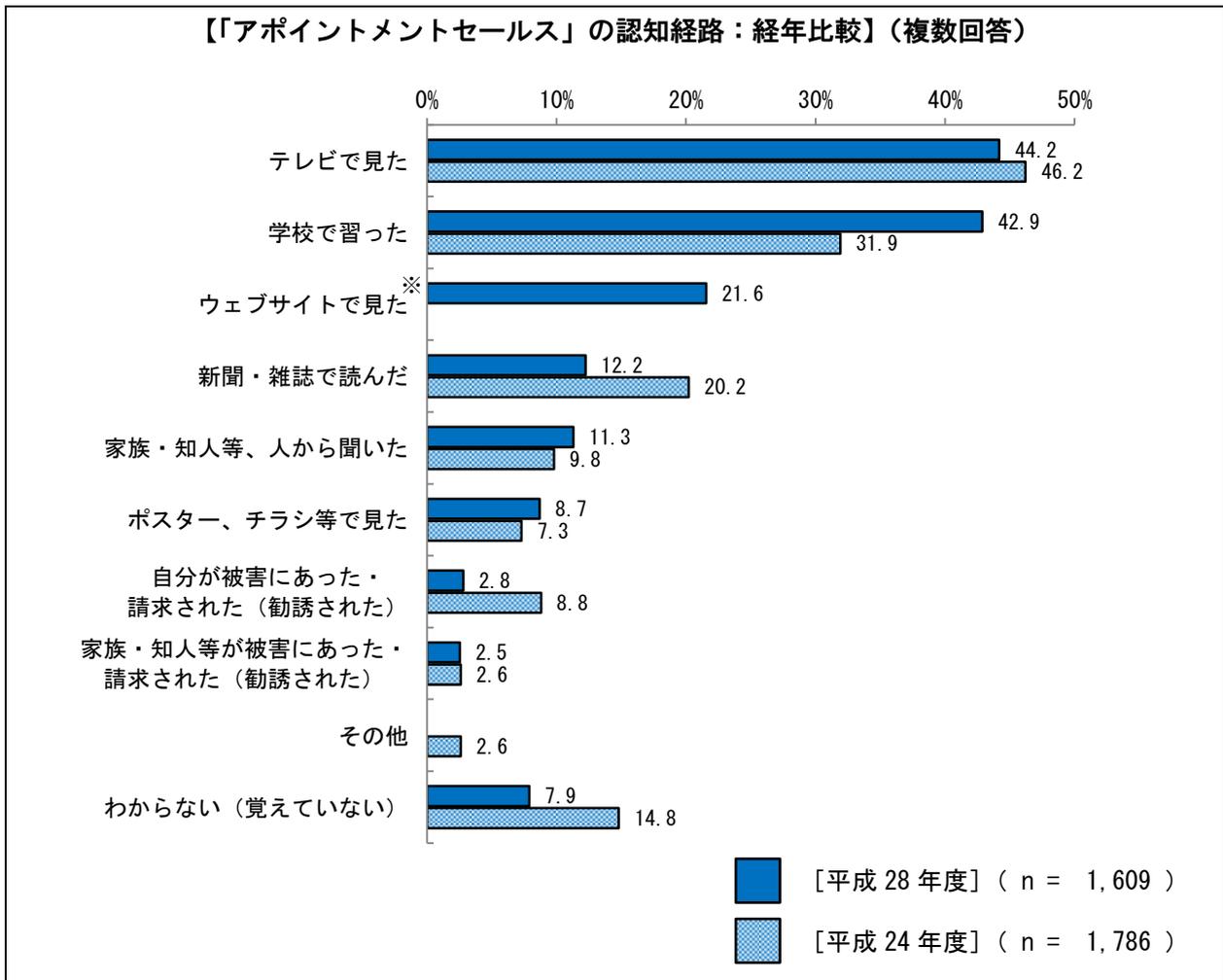
職業別にみると、「内容（手口）を知っている」は、〔学生〕が47.7%で最も高くなっている。「内容は知らないが、名称（言葉）は知っている」は、〔フルタイム労働者〕が31.1%、「知らない」は、〔無職〕が54.3%で最も高くなっている。



② 「アポイントメントセールス」の認知経路

「アポイントメントセールス」という悪質商法を認知している人（1,609人）の認知経路は、「テレビで見た」が44.2%で最も高く、次いで「学校で習った」が42.9%、「ウェブサイトで見た」が21.6%、「新聞・雑誌で読んだ」が12.2%、「家族・知人等、人から聞いた」が11.3%となっている。

平成24年度と比較すると、「学校で習った」は、前回（31.9%）に比べ、11.0ポイント増加している。一方、「新聞・雑誌で読んだ」は、前回（20.2%）に比べ、8.0ポイント減少している。



※ 選択肢「ウェブサイトで見つた」を平成28年度調査において新規に追加した。

性・年齢別にみると、男女ともに [22～25 歳] 及び [26～29 歳] で「テレビで見た」が1位となっており、[18～21 歳] では「学校で習った」が1位となっている。

職業別にみると、[学生] 及び [高校生] を除く区分で「テレビで見た」が1位となっており、[学生] (64.8%) 及び [高校生] (82.9%) では「学校で習った」が1位となっている。「ウェブサイトで見つた」は [フルタイム労働者] が 28.5%と他の区分より高くなっている。

【「アポイントメントセールス」の認知経路（性・年齢別、職業別）】（複数回答）

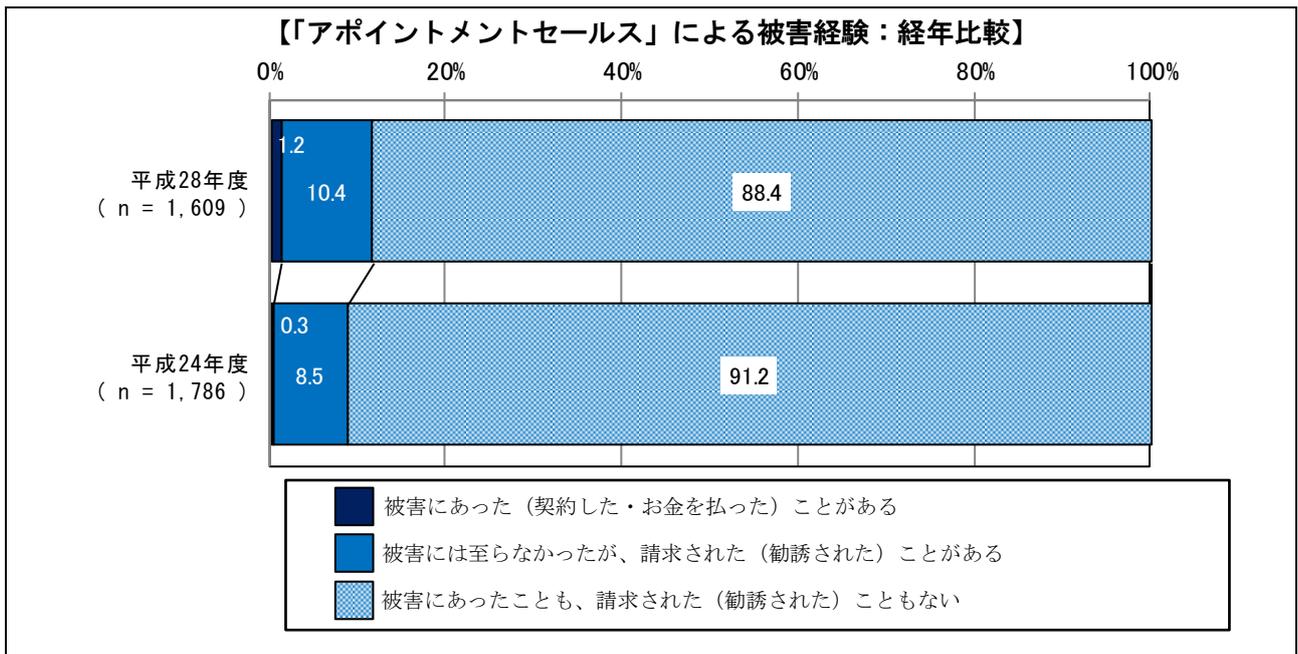
		(%)									
		テレビで見た	学校で習った	ウェブサイトで見つた	新聞・雑誌で読んだ	家族・知人等、人から聞いた	ポスター、チラシ等で見つた	自分が被害にあった・請求された（勧誘された）	家族・知人等が被害にあつた・請求された（勧誘された）	その他	わからない（覚えていない）
n											
全 体	(1,609)	44.2	42.9	21.6	12.2	11.3	8.7	2.8	2.5	-	7.9
[性・年齢別]											
男 性	(815)	44.3	39.3	25.2	15.8	10.8	9.6	2.6	2.8	-	9.3
18 ～ 21 歳	(277)	32.9	63.5	18.8	11.2	6.5	7.9	0.4	1.4	-	6.9
22 ～ 25 歳	(277)	46.6	35.4	26.4	14.8	14.4	7.2	3.2	2.9	-	7.9
26 ～ 29 歳	(261)	54.0	17.6	30.7	21.8	11.5	13.8	4.2	4.2	-	13.4
女 性	(794)	44.1	46.6	17.9	8.6	11.8	7.8	3.0	2.3	-	6.4
18 ～ 21 歳	(293)	27.6	74.1	10.2	5.1	6.5	4.4	3.1	2.0	-	5.1
22 ～ 25 歳	(256)	48.8	41.0	21.5	9.8	15.6	9.0	1.6	1.2	-	5.9
26 ～ 29 歳	(245)	58.8	19.6	23.3	11.4	14.3	10.6	4.5	3.7	-	8.6
[職 業 別]											
フルタイム労働者	(603)	52.6	23.1	28.5	17.1	14.6	11.8	2.7	3.2	-	10.6
パート、アルバイト等	(190)	43.2	31.6	20.0	8.4	12.1	9.5	3.2	2.1	-	8.9
専業主婦（主夫）	(57)	64.9	22.8	14.0	3.5	12.3	3.5	1.8	3.5	-	5.3
学 生	(653)	34.9	64.8	16.8	10.7	8.7	6.6	2.3	1.8	-	4.7
高 校 生	(41)	26.8	82.9	7.3	2.4	7.3	4.9	2.4	2.4	-	4.9
無 職	(63)	54.0	31.7	23.8	7.9	6.3	6.3	9.5	4.8	-	15.9
そ の 他	(2)	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-

：網掛けは各性・年齢、職業で第1位の項目

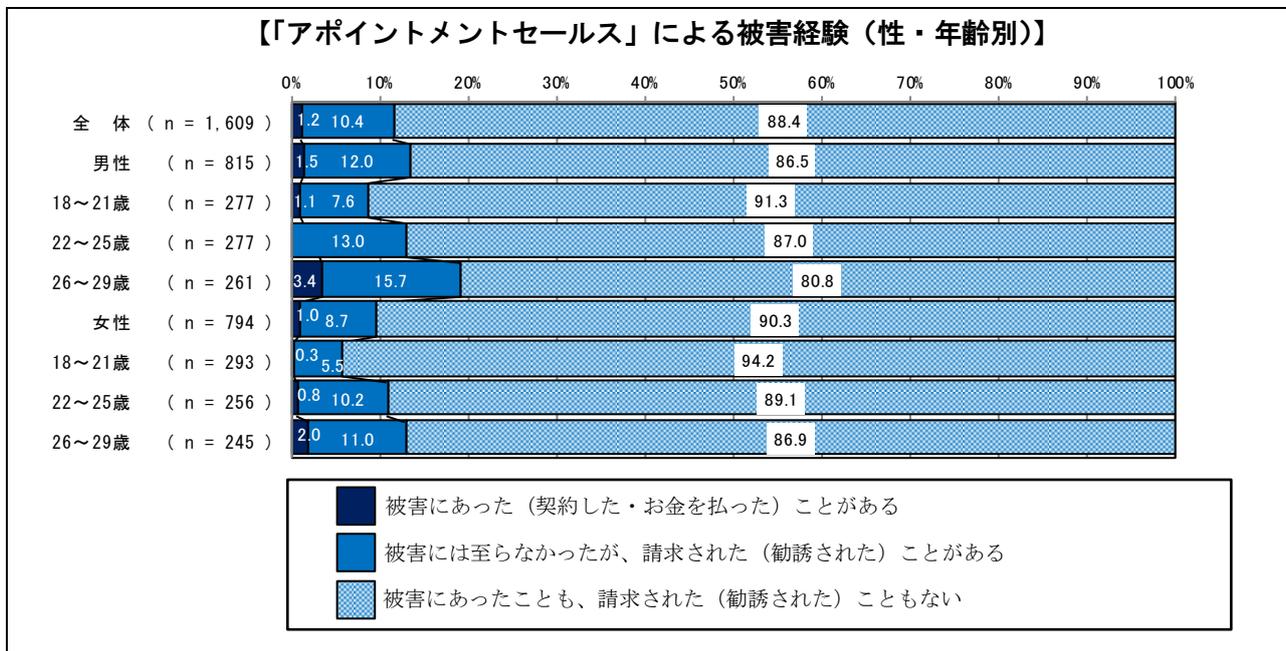
③ 「アポイントメントセールス」による被害経験

「アポイントメントセールス」による被害経験は、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」が 1.2%、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」が 10.4%、「被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない」が 88.4%となっている。

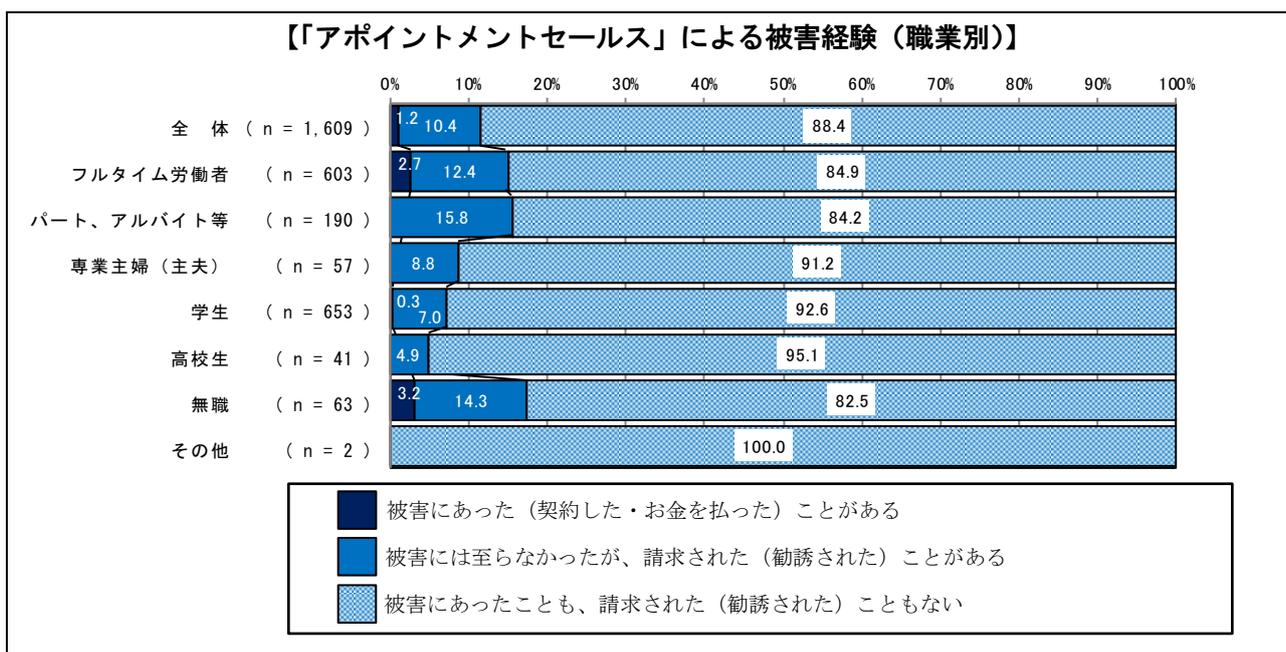
平成 24 年度と比較すると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は前回（0.3%）に比べ、0.9 ポイント増加しており、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、前回（8.5%）に比べ、1.9 ポイント増加している。



性・年齢別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、[男性・26～29歳]が3.4%で最も高く、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、すべての年齢で[男性]が[女性]を上回っており、特に[男性・26～29歳]が15.7%で最も高くなっている。



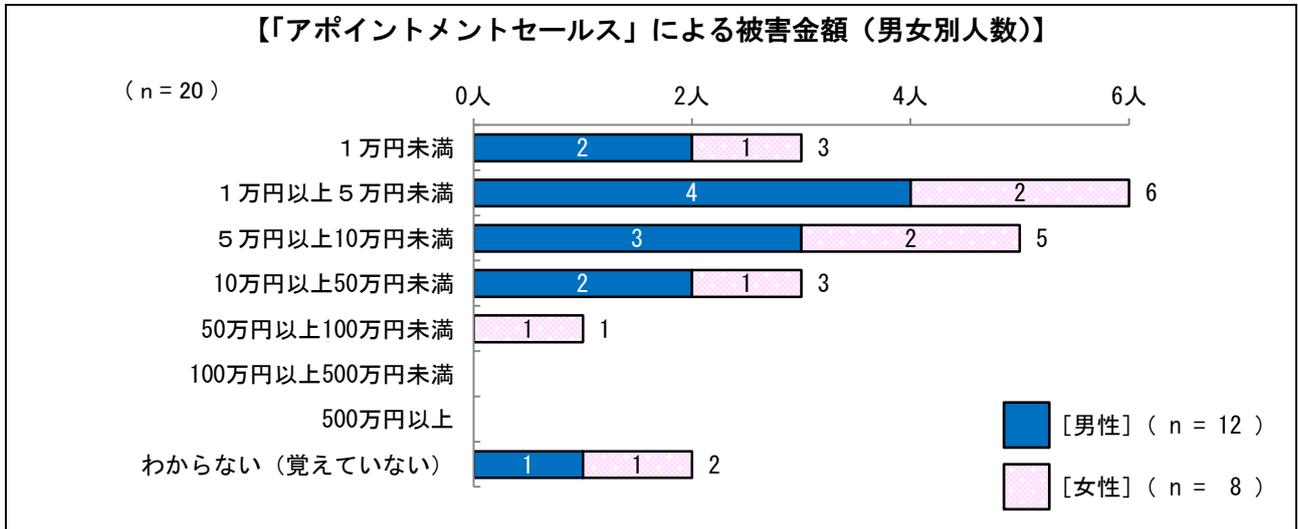
職業別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、[無職]が3.2%で最も高く、次いで[フルタイム労働者]が2.7%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、[パート、アルバイト等]が15.8%で最も高くなっている。



④ 「アポイントメントセールス」による被害金額

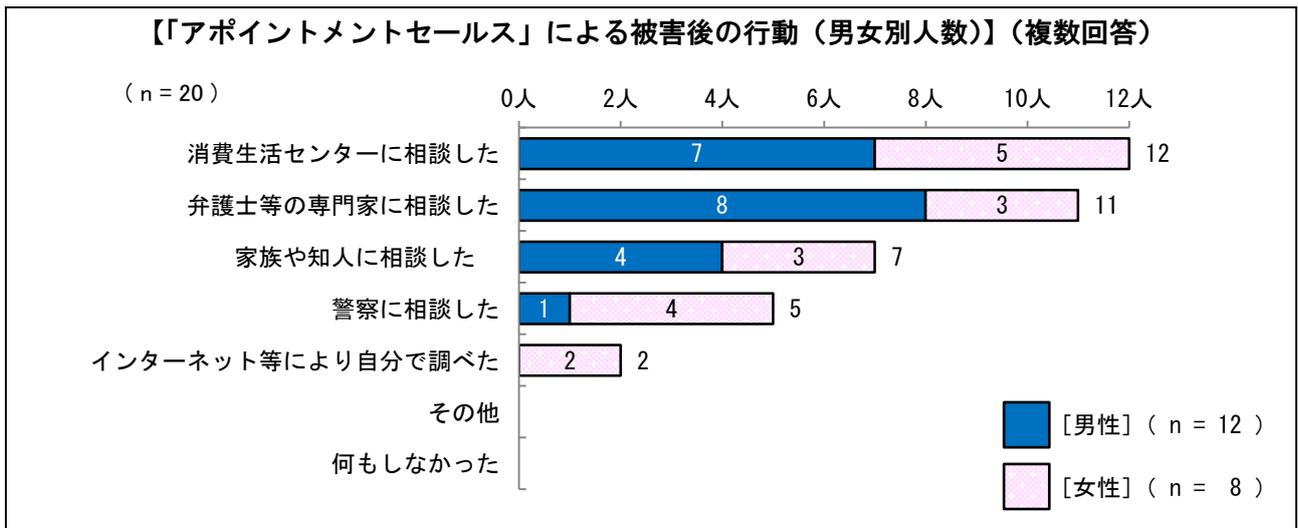
「アポイントメントセールス」による被害経験者 20 人（男性 12 人、女性 8 人）の被害金額は、「1 万円以上 5 万円未満」が 6 人（男性 4 人、女性 2 人）で最も多く、次いで「5 万円以上 10 万円未満」が 5 人（男性 3 人、女性 2 人）となっている。

また、『10 万円以上』の高額の被害が 4 人（男性 2 人、女性 2 人）となっている。



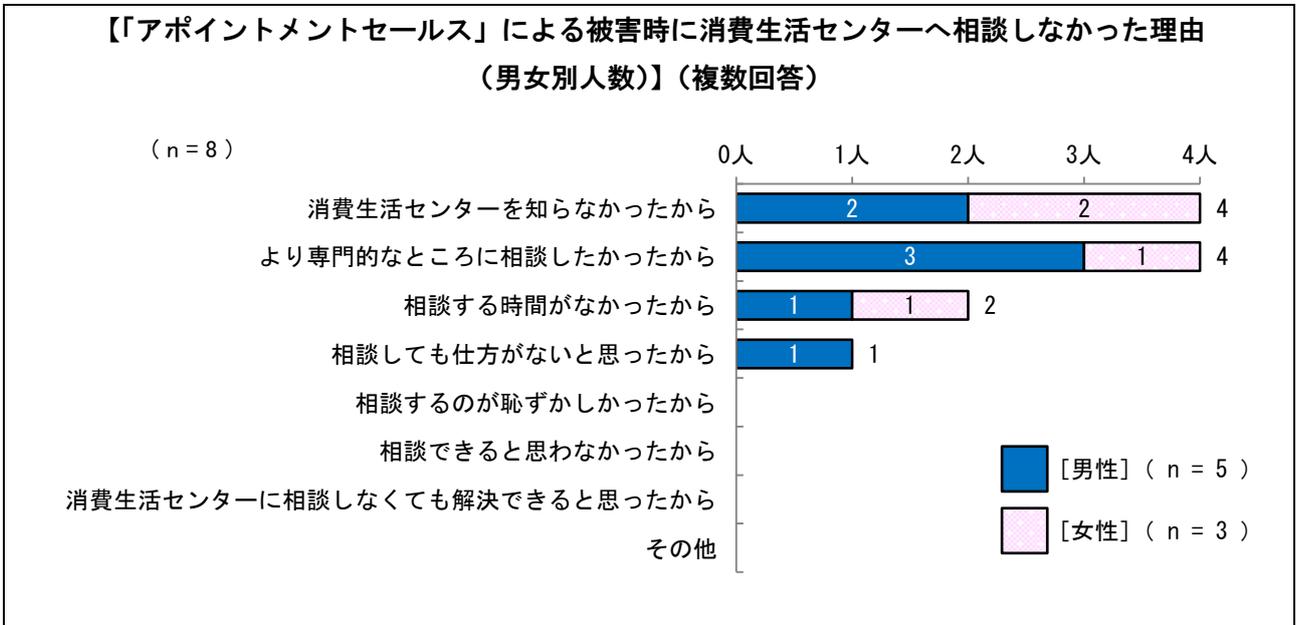
⑤ 「アポイントメントセールス」による被害後の行動

「アポイントメントセールス」による被害経験者 20 人（男性 12 人、女性 8 人）の被害後の行動は、「消費生活センターに相談した」が 12 人（男性 7 人、女性 5 人）で最も多く、次いで「弁護士等の専門家に相談した」が 11 人（男性 8 人、女性 3 人）となっている。また、「何もしなかった」と回答した人はいなかった。



⑥ 「アポイントメントセールス」による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由

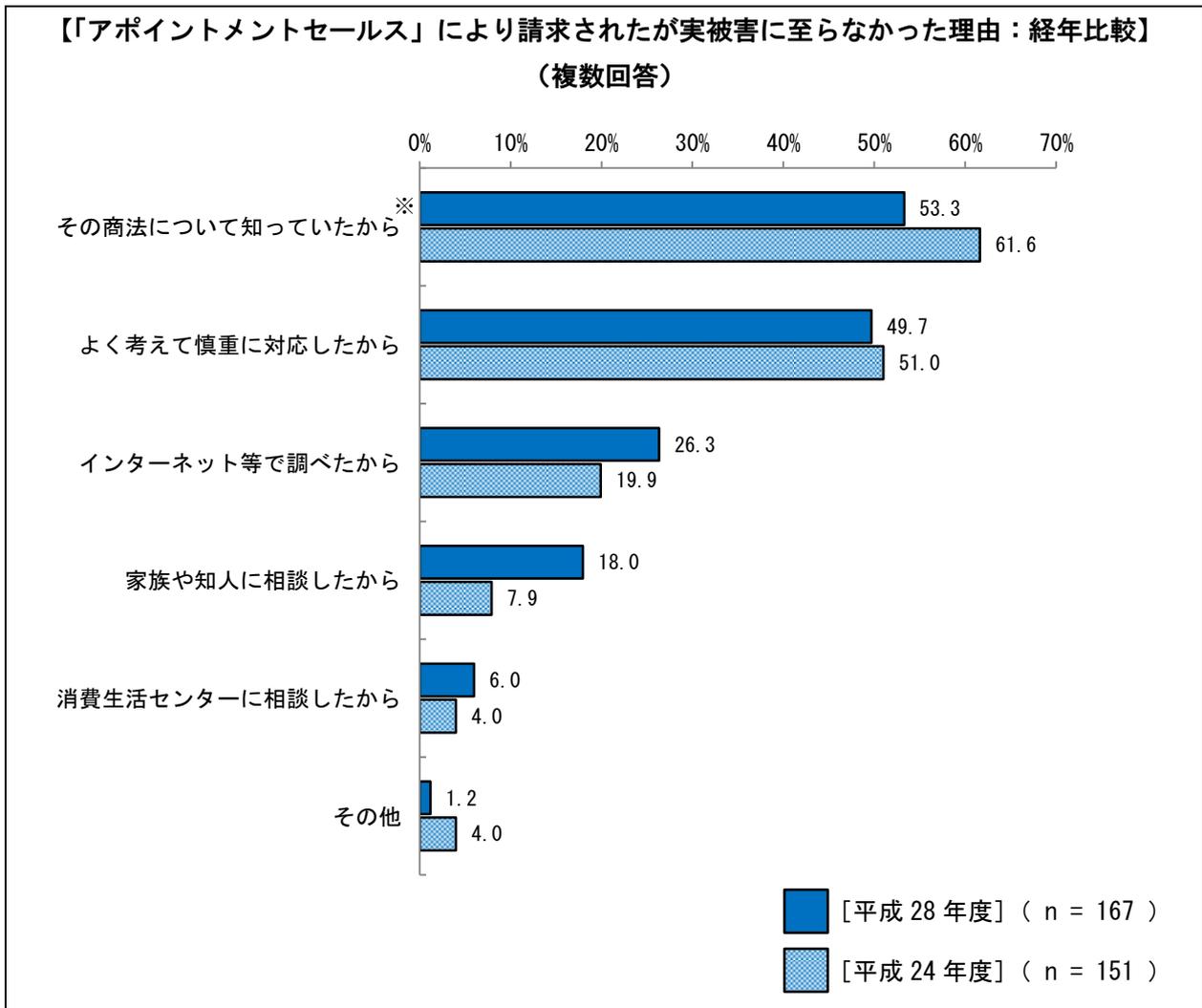
「アポイントメントセールス」による被害経験者のうち、被害時に消費生活センターへ相談しなかった8人（男性5人、女性3人）の理由は、「消費生活センターを知らなかったから」（男性2人、女性2人）及び「より専門的なところに相談したかったから」（男性3人、女性1人）がともに4人となっている。



⑦ 「アポイントメントセールス」により請求されたが実被害に至らなかった理由

「アポイントメントセールス」により請求されたが実被害に至らなかった人（167人）の理由は、「その商法について知っていたから」が53.3%で最も高くなっている。次いで「よく考えて慎重に対応したから」が49.7%、「インターネット等で調べたから」が26.3%、「家族や知人に相談したから」が18.0%となっている。

平成24年度と比較すると、「その商法について知っていたから」は、前回（61.6%）に比べ、8.3ポイント減少している。



※ 平成24年度調査「その商法の手口を知っていたから」を平成28年度調査において「その商法について知っていたから」に変更した。軽微な変更な為、経年比較を行った。

性・年齢別にみると、[男性・22～25 歳] 及び [女性・26～29 歳] を除く区分で「その商法について知っていたから」が1位となっており、特に [男性・26～29 歳] が63.4%で最も高くなっている。[男性・22～25 歳] では、「よく考えて慎重に対応したから」(55.6%) が1位、[女性26～29 歳] では、「よく考えて慎重に対応したから」(44.4%) 及び「家族や知人に相談したから」(44.4%) が同率の1位となっている。

職業別にみると、[フルタイム労働者] 及び [無職] を除く区分で「その商法について知っていたから」が1位となっている。[フルタイム労働者] (53.3%) 及び [無職] (77.8%) では「よく考えて慎重に対応したから」が1位となっている。

**【「アポイントメントセールス」により請求されたが実被害に至らなかった理由
(性・年齢別、職業別)】(複数回答)**

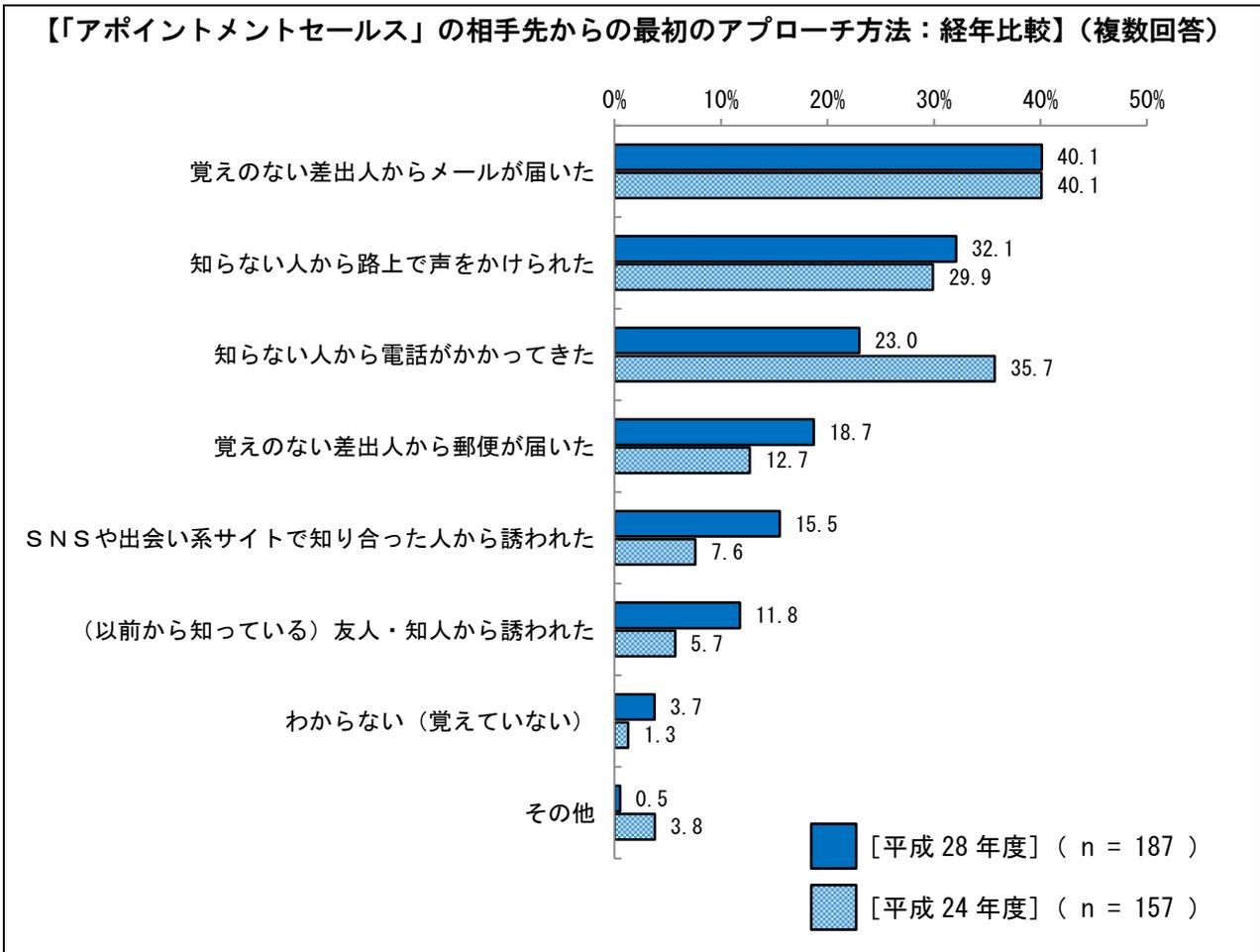
		(%)					
n		その商法について知っていたから	よく考えて慎重に対応したから	インターネット等で	家族や知人に相談したから	消費生活センターに相談したから	その他
全 体	(167)	53.3	49.7	26.3	18.0	6.0	1.2
[性 ・ 年 齢 別]							
男 性	(98)	56.1	55.1	22.4	11.2	8.2	2.0
18 ～ 21 歳	(21)	52.4	47.6	9.5	14.3	9.5	4.8
22 ～ 25 歳	(36)	50.0	55.6	36.1	5.6	5.6	2.8
26 ～ 29 歳	(41)	63.4	58.5	17.1	14.6	9.8	-
女 性	(69)	49.3	42.0	31.9	27.5	2.9	-
18 ～ 21 歳	(16)	56.3	37.5	31.3	6.3	-	-
22 ～ 25 歳	(26)	53.8	42.3	30.8	23.1	3.8	-
26 ～ 29 歳	(27)	40.7	44.4	33.3	44.4	3.7	-
[職 業 別]							
フルタイム労働者	(75)	48.0	53.3	26.7	16.0	8.0	1.3
パート、アルバイト等	(30)	60.0	53.3	26.7	20.0	-	-
専業主婦(主夫)	(5)	80.0	20.0	20.0	40.0	-	-
学 生	(46)	54.3	39.1	26.1	10.9	6.5	2.2
高 校 生	(2)	100.0	50.0	-	-	-	-
無 職	(9)	44.4	77.8	33.3	55.6	11.1	-
そ の 他	-	-	-	-	-	-	-

：網掛けは各性・年齢、職業で第1位の項目

⑧ 「アポイントメントセールス」の相手先からの最初のアプローチ方法

「アポイントメントセールス」により勧誘され被害にあった人及び勧誘されたが実被害に至らなかった人（187人）がアプローチされた方法は、「覚えのない差出人からメールが届いた」が40.1%で最も高く、次いで「知らない人から路上で声をかけられた」が32.1%、「知らない人から電話がかかってきた」が23.0%となっている。

平成24年度と比較すると、「知らない人から電話がかかってきた」は、前回（35.7%）に比べ、12.7ポイント減少しており、「SNSや出会い系サイトで知り合った人から誘われた」は前回（7.6%）に比べ、7.9ポイント増加している。



性・年齢別にみると、[男性・22～25 歳] 及び [男性・26～29 歳] を除く区分で「覚えのない差出人からメールが届いた」が1位となっており、特に [女性・18～21 歳] が58.8%で最も高くなっている。[男性・22～25 歳] (38.9%) 及び [男性・26～29 歳] (38.0%) では「知らない人から路上で声をかけられた」が1位となっており、[男性・26～29 歳] では「覚えのない差出人から郵便が届いた」(38.0%) も同率の1位となっている。

職業別にみると、すべての区分で「覚えのない差出人からメールが届いた」が1位となっている。また、[無職] では「知らない人から路上で声をかけられた」(36.4%) が同率の1位となっている。

【「アポイントメントセールス」の相手先からの最初のアプローチ方法（性・年齢別、職業別）
（複数回答）

		(%)								
		n	覚えのない差出人からメールが届いた	知らない人から路上で声をかけられた	知らない人から電話がかかってくる	覚えのない差出人から郵便が届いた	SNSや出会い系サイトでの知り合った人から誘われた	(以前から知っている)友人・知人から誘われた	わからない(覚えていない)	その他
全 体		(187)	40.1	32.1	23.0	18.7	15.5	11.8	3.7	0.5
[性 ・ 年 齢 別]										
男 性		(110)	37.3	37.3	25.5	24.5	16.4	9.1	3.6	-
18 ～ 21 歳	(24)	41.7	33.3	16.7	20.8	12.5	4.2	8.3	-	-
22 ～ 25 歳	(36)	36.1	38.9	22.2	8.3	19.4	13.9	2.8	-	-
26 ～ 29 歳	(50)	36.0	38.0	32.0	38.0	16.0	8.0	2.0	-	-
女 性		(77)	44.2	24.7	19.5	10.4	14.3	15.6	3.9	1.3
18 ～ 21 歳	(17)	58.8	23.5	11.8	-	17.6	5.9	5.9	-	-
22 ～ 25 歳	(28)	50.0	21.4	14.3	10.7	14.3	10.7	7.1	-	-
26 ～ 29 歳	(32)	31.3	28.1	28.1	15.6	12.5	25.0	-	-	3.1
[職 業 別]										
フルタイム労働者	(91)	39.6	35.2	25.3	25.3	20.9	9.9	2.2	-	-
パート、アルバイト等	(30)	30.0	20.0	20.0	10.0	10.0	23.3	3.3	-	-
専業主婦(主夫)	(5)	40.0	20.0	20.0	-	-	20.0	20.0	-	-
学 生	(48)	45.8	33.3	20.8	12.5	14.6	10.4	4.2	-	-
高 校 生	(2)	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
無 職	(11)	36.4	36.4	27.3	27.3	-	-	9.1	9.1	-
そ の 他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

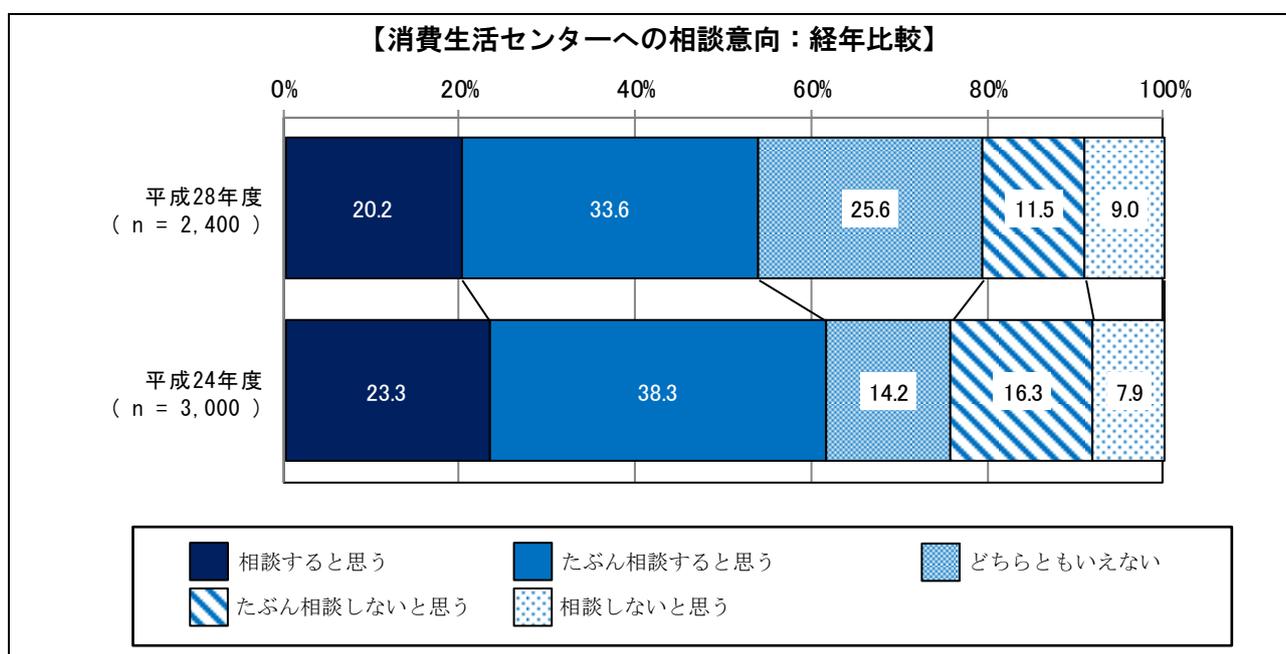
：網掛けは各性・年齢、職業で第1位の項目

(6) 悪質商法による被害後の今後の行動意向

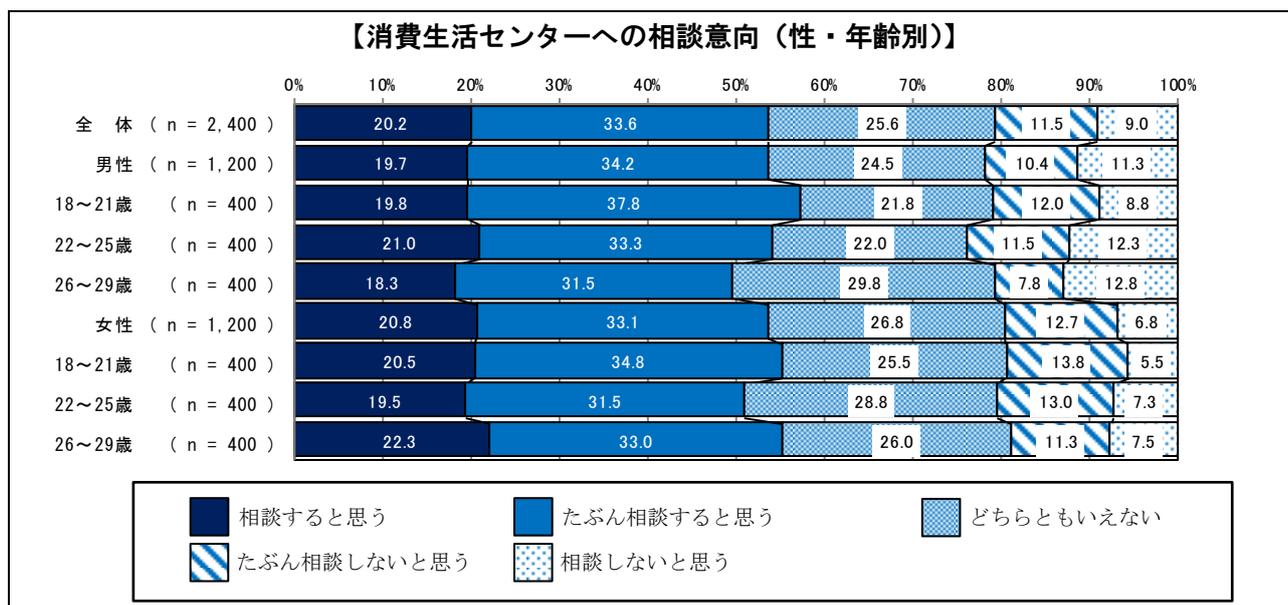
①消費生活センターへの相談意向

悪質商法による被害を受けた場合の消費生活センターへの相談意向は、「相談すると思う」が20.2%、「たぶん相談すると思う」が33.6%、「たぶん相談しないと思う」が11.5%、「相談しないと思う」が9.0%となっている。『相談意向』（「相談すると思う」＋「たぶん相談すると思う」）は、53.8%となっている。

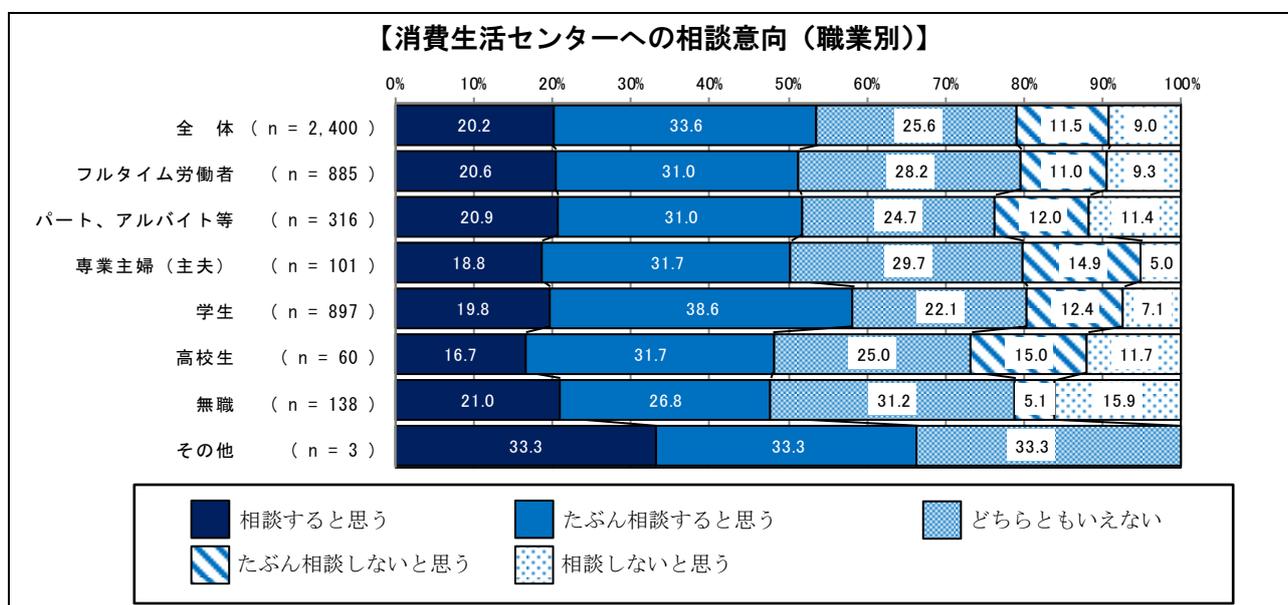
平成24年度と比較すると、『相談意向』は、前回（61.6%）に比べ、7.8ポイント減少している。また、『相談しない意向』（「たぶん相談しないと思う」＋「相談しないと思う」）も前回（24.2%）に比べ、3.7ポイント減少しており、「どちらともいえない」が前回（14.2%）に比べ、11.4ポイント増加している。



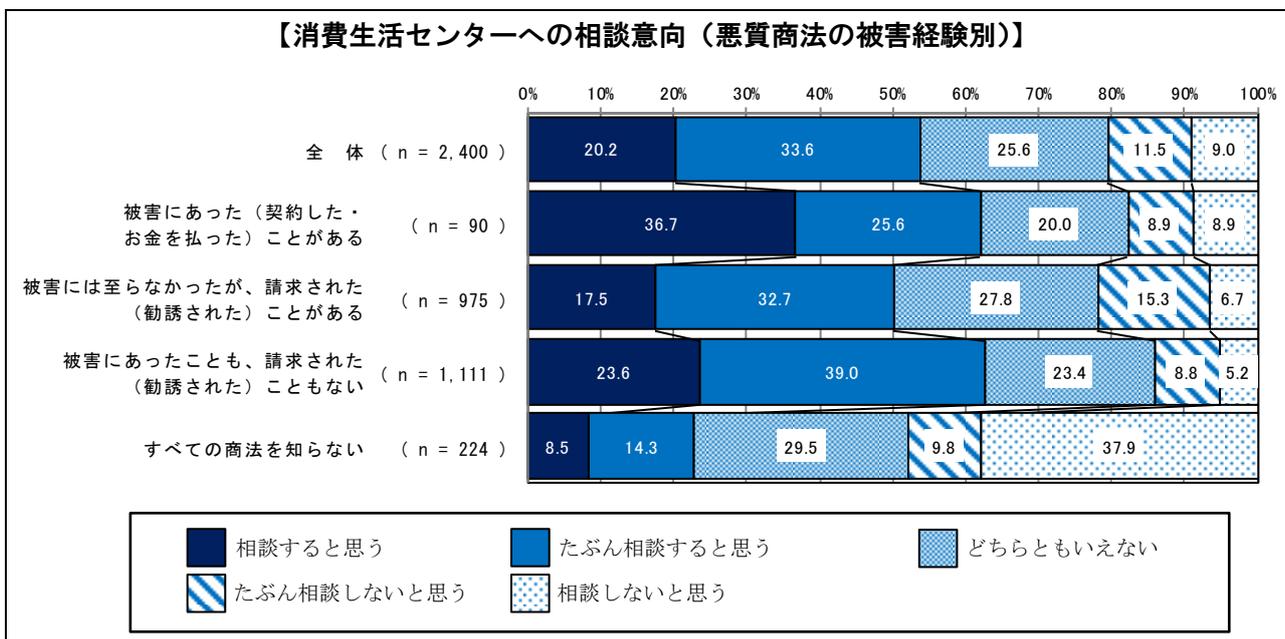
性・年齢別にみると、『相談意向』は、[男性・26～29歳]を除き5割を超えており、特に[男性・18～21歳]が57.6%で最も高くなっている。



職業別にみると、『相談意向』は、[学生]が58.4%で最も高く、次いで[パート、アルバイト等]が51.9%、[フルタイム労働者]が51.6%となっている。



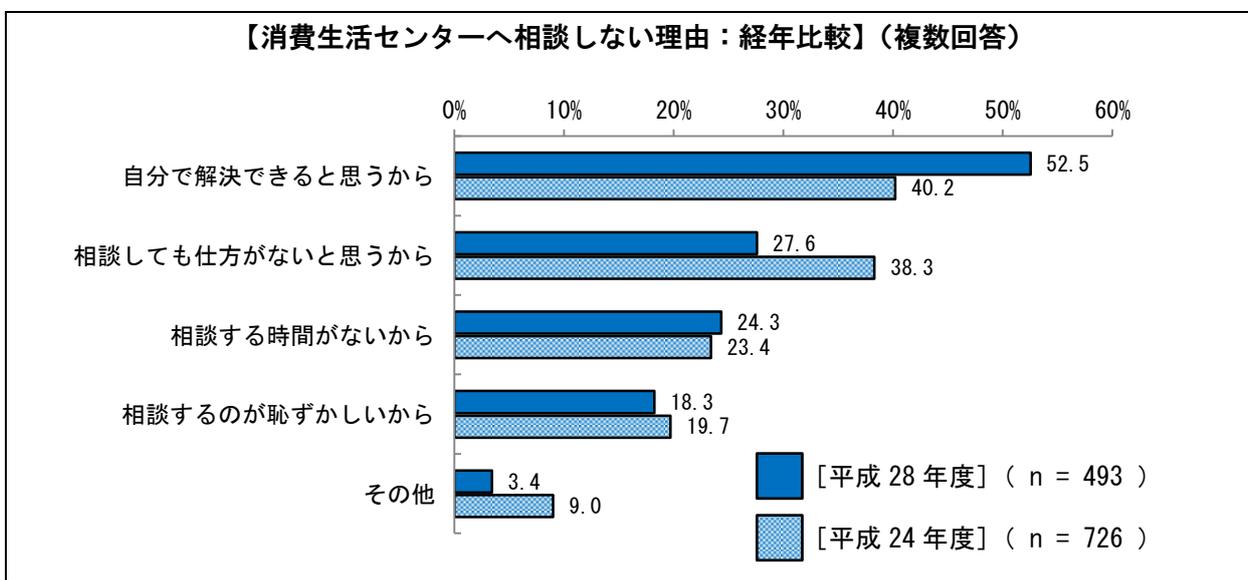
悪質商法の被害経験別にみると、『相談意向』は、[被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない]が62.6%で最も高く、次いで[被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある]が62.3%と高い。[すべての商法を知らない]は22.8%と『相談意向』が最も低い。



②消費生活センターへ相談しない理由

悪質商法による被害を受けた場合に消費生活センターへは相談しない（「たぶん相談しないと思う」＋「相談しないと思う」）と回答した人（493人）の理由は、「自分で解決できると思うから」が52.5%で最も高く、次いで「相談しても仕方がないと思うから」が27.6%、「相談する時間がないから」が24.3%となっている。

平成24年度と比較すると、「自分で解決できると思うから」は、前回（40.2%）に比べ、12.3ポイント増加している。一方、「相談しても仕方がないと思うから」は、前回（38.3%）に比べ、10.7ポイント減少している。



性別にみると、「自分で解決できると思うから」は、[男性] が 58.5%と、[女性] (45.9%) に比べ、12.6 ポイント上回っている。一方、「相談する時間がないから」は、[女性] が 29.6%と、[男性] (19.6%) に比べ、10.0 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、男女ともにすべての年齢で「自分で解決できると思うから」が1位となっており、[男性・26～29歳] が 68.3%で最も高くなっている。「相談する時間がないから」は [女性・22～25歳] が 37.0%と他の区分より高くなっている。

職業別にみると、すべての職業で「自分で解決できると思うから」が1位となっている。また、[高校生] では「相談するのが恥ずかしいから」(37.5%) が同率の1位となっている。

【消費生活センターへ相談しない理由（性・年齢別、職業別）】（複数回答）

		(%)				
		と自分で 思うから 解決できる	な相談し ても仕 方が	い相談 する時 間がない	か相談 するの が恥ず かしい	その他
n						
全 体	(493)	52.5	27.6	24.3	18.3	3.4
[性 ・ 年 齢 別]						
男 性	(260)	58.5	25.0	19.6	16.2	1.5
18 ～ 21 歳	(83)	57.8	19.3	22.9	22.9	1.2
22 ～ 25 歳	(95)	50.5	31.6	23.2	14.7	-
26 ～ 29 歳	(82)	68.3	23.2	12.2	11.0	3.7
女 性	(233)	45.9	30.5	29.6	20.6	5.6
18 ～ 21 歳	(77)	49.4	26.0	26.0	24.7	9.1
22 ～ 25 歳	(81)	49.4	30.9	37.0	19.8	3.7
26 ～ 29 歳	(75)	38.7	34.7	25.3	17.3	4.0
[職 業 別]						
フルタイム労働者	(179)	53.1	30.7	25.1	14.5	3.9
パート、アルバイト等	(74)	50.0	31.1	24.3	20.3	2.7
専業主婦（主夫）	(20)	55.0	25.0	25.0	5.0	-
学 生	(175)	53.7	24.0	26.9	20.6	3.4
高 校 生	(16)	37.5	18.8	18.8	37.5	6.3
無 職	(29)	55.2	27.6	6.9	20.7	3.4
そ の 他	-	-	-	-	-	-

：網掛けは各性・年齢、職業で第1位の項目

悪質商法の被害経験別にみると、すべての区分で「自分で解決できると思うから」が1位となっており、[被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある]が62.6%で最も高くなっている。「相談しても仕方がないと思うから」は[被害にあったことも請求された（勧誘された）こともない]が32.7%で最も高い。「相談する時間がないから」は、[被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある]が27.1%で最も高く、[被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある]が6.3%で最も低くなっている。

【消費生活センターへ相談しない理由（悪質商法の被害経験別）】（複数回答）

		(%)					
		と自分で解決できる	ない相談しても仕方がない	い相談する時間がない	か相談するのが恥ずかしい	その他	
n							
全	体	(493)	52.5	27.6	24.3	18.3	3.4
[悪質商法の被害経験別]							
被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある	(16)	50.0	31.3	6.3	12.5	12.5	
被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある	(214)	62.6	28.0	27.1	17.8	3.3	
被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない	(156)	36.5	32.7	24.4	22.4	5.1	
すべての商法を知らない	(107)	56.1	18.7	21.5	14.0	-	

：網掛けは悪質商法の被害経験で第1位の項目